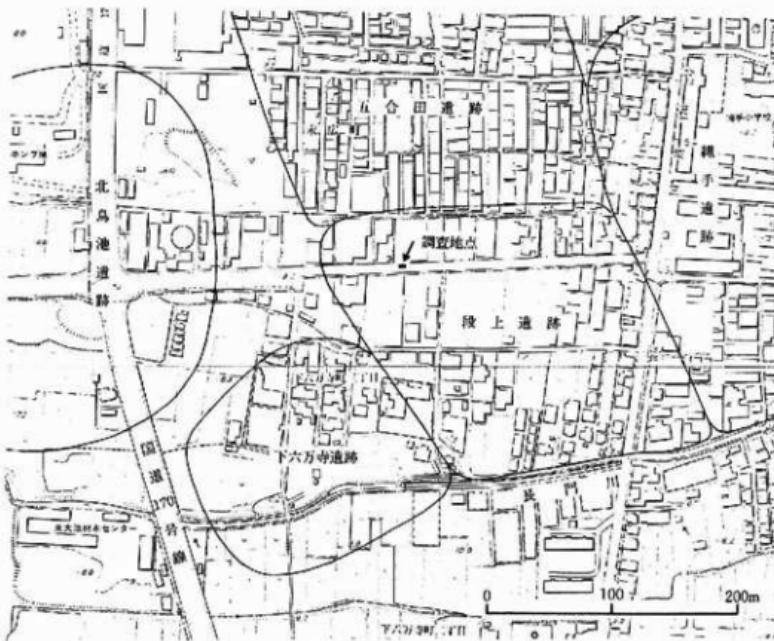


段上遺跡の調査

I. 遺跡の位置

段上遺跡については、従来より東大阪市の埋蔵文化財包蔵地分布図に周知の遺跡としてのせているが、昭和45年頃今回の調査地の南側畠地～宅地の掘上土から弥生土器や須恵器の破片が採集されたことが遺跡の発見となって以来今日まで遺跡の内容としてほとんど報告される資料・調査がなかった遺跡である。

遺跡は、東大阪市の東端、牛駒山地西麓に広がり北は室川、南は長門川の両谷川筋にはさまれた扇状地末端近くに位置する。すぐ上手の旧170号線の東側に所在する繩手小・中学校敷地を中心として、繩文時代中期以降後期前半期を中心とした遺物が多量に出土し、11戸分もの堅穴住居跡が検出された繩手遺跡が近接している。西方には、南北に市域を縦貫する国道170号線（外環状線）と長門川との間に、弥生時代末期～古墳時代初めの遺跡として注目される北鳥池遺跡が存在している。また北側には、同じく調査例がほとんどない古墳時代後期を中心



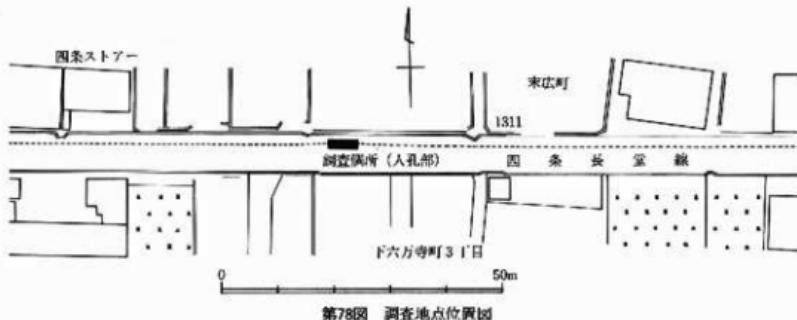
第77図 段上遺跡調査地点と周辺の道路

とした五合田遺跡が存在し、さらに南西方向には、下六万寺墓地より多数の滑石製品（勾玉・刀子他）が採集されている下六万寺遺跡が近接している。（第77図）

遺跡周辺は、標高約9～14mを測り、東西に横切る府道大阪東大阪線（旧四条長堀線）の南北一帯、下六万寺町3丁目～末広町の一部にかけて広がっているものと判断される。本調査地の南西約70mの工場内でも同時期の遺物包含層の存在を確認している。

II. 調査の経過

遺跡周辺は、比較的早くから住宅が建ち並び、発見時以来ほとんど発掘調査を必要とする目立った土木建築工事はなかった。昭和57年6月、関西電力㈱大阪南支店より本遺跡を東西に横切る府道内に、東西約300mにわたって電気ケーブルを埋設する工事計画についての届出があった。埋設の区間は、東方堀手中学校南西角より西方の170号線との交差点近くまでの間で、幅約1mの掘削溝内に埋設されるものであった。道路内には、これまで相当の埋設管等があった



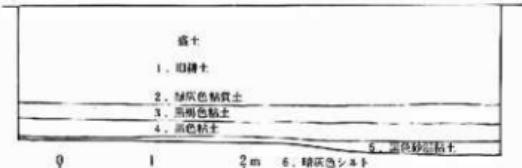
がこの中で今回の報告となった管路中央付近に設置される人孔部は、道路面より深さ約3.5mまで達するものであり、とくに調査を必要とするものであった。

このため、埋設物等の試掘に立会・協議の上、管路部分は立会調査、人孔部分については工事と並行して遺構・遺物についての確認を行うこととなり、人孔部については、昭和58年2月14日に不十分ながら調査を実施した。

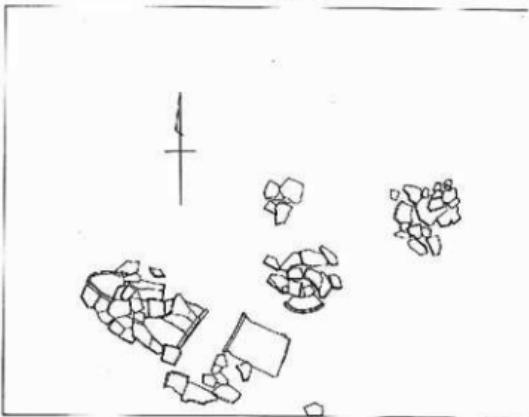
III. 調査結果

1) 層序と遺物出土状況

今回の調査の対象となった人孔部は、末広町1300番地先にあたる府道内に東西6.8m、南北2.4mの範囲に設けられるものであった。掘削機械により上部の盛土層、第1層耕土層、第2層青灰色～緑灰色粘質土、さらに下部の第3層の黒褐色粘土層を順次掘削した。第3層は鉄分が多く含まれ、比較的固い粘土層となっているが、遺物等は確認できなかった。第4層黒色粘土



第79図 調査地点の層序



第80図 人孔部弥生上器（中期）出土状況略測図（1/30）

ほぼ原位置を保った状況で、弥生時代中期の壺・壺等5点が一括出土した（第81図）。

これらの土器の出土した第6層上面では、とくに遺構とみられるものは確認できなかった。

2) 出土遺物

今回の調査で出土した遺物は、第4層より出土した後期の弥生上器壺1、短頸壺1及び第5層より出土した中期の壺1、壺3、小型壺1の計7点の土器がある。（第81図、第82図）

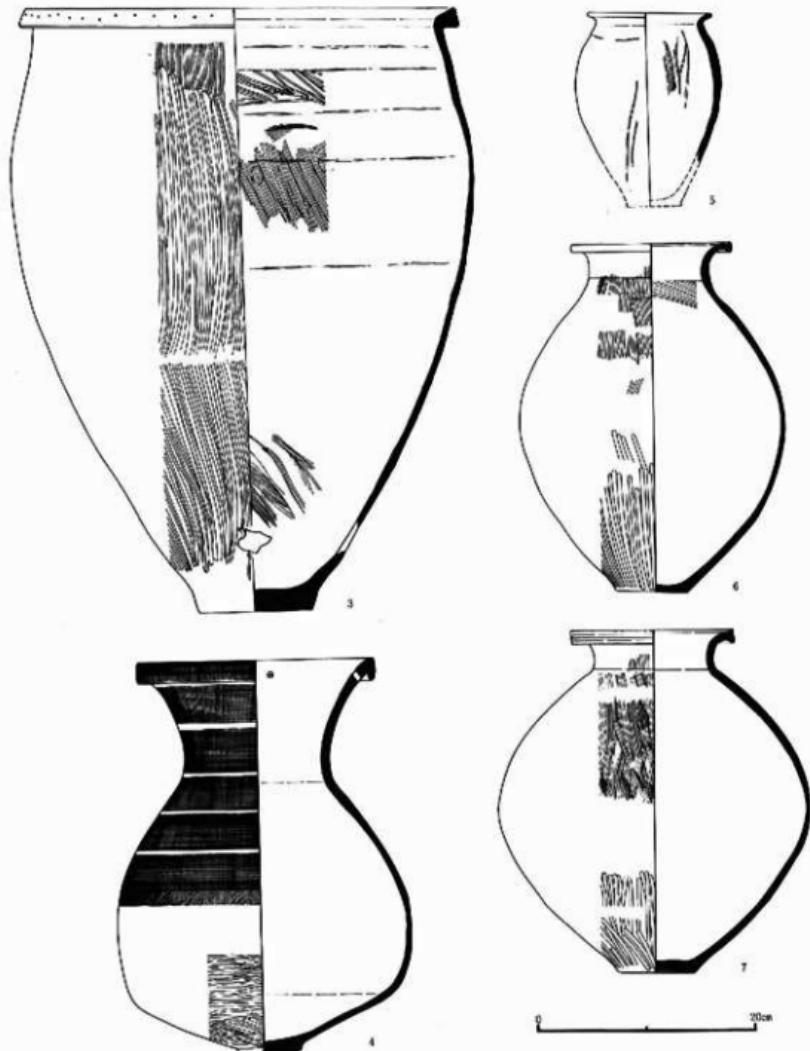
1は、口径11.6cm、頸部径9.0cm、胴径12.4cm、器高13.0cmを測る小型の丸い壺である。底径は4.4cmを測る台状の外へ開いた底部をつけており、胴外面にはタタキ目を付け、頸部近くは縦位に、また内面下半は横位にハケによる調整を施している。

2は、口縁部及び底部を欠損しているが、口径約8.5cm、胴径14.6cm、器高約18.5cmを測る短頸壺である。胴部最大径は頸部に近く、底部まで直線的に径をせばめている。胴内面には一部ハケ目調整の痕跡をのこしている。

3は、大型の壺で、口径40.2cm、胴径42.6cm、底径10.4cm、器高55.4cmを測る。口縁端面には刺突文をめぐらせている。器外面上部は、縦位にハケ調整を施した後、底部近くまで縦位にヘラミガキを施している。内面は器面の剥離がひどいが、ハケ調整及びヘラミガキを施してい

層は厚さ20~30cmを測り、調査地内東半中央付近より弥生時代後期の小型壺と短頸壺各1点が出土した。（第82図）

地表下1.6~1.7mにあたる第6層は暗灰色シルト層で、その上面は調査地内中央でやや西へ下っていて、この層上部に堆積する第4層は6層との混りも加わって、東半では薄く西半にかけては6層面の傾斜に合わせてやや厚く第5層の黒色砂質粘土層がみられ、西半部において第80図のとおり、押しつぶされ、



第81圖 張生上器（中期1/4）

る。底部より 7 cm 上に 3 cm 大の焼成後に施された外面よりの穿孔がみられる。また、胴中央には黒斑が認められる。

4 は、口径 21.6 cm、頸径 13.2 cm、胴径 26.9 cm、底径 5.4 cm、器高 35.8 cm を測る精巧な壺である。幅広の口縁端面及び頸部～胴上半部にかけて各帯 29 本からなる

5 帯の櫛描簾状文と最下に羽状文 1 帯を施しているが、各帯の施工上の櫛の止動

間隔は極めて緻密で約 3 mm 間隔で、胴最大径部 1 帯のみで約 260 回分に相当する。口縁端近くには径 4 mm 大の蓋用の小孔を 4 孔穿っている。胴部下半～底部は横位のヘラミガキを施し、鉢状の胴下半にわずかな高さの底部を付け安定はよくない。

5 は、小型の壺で、口径 11.4 cm、胴径 13.3 cm、底径 5 cm、器高 17.8 cm を測る。口縁は丸く外反させている。内外面とも部分的に縦位のヘラミガキが観察される。胴下半、頸部近くに黒斑がみられる。

6・7 は、ほぼ器高を同じくする壺である。6 は口径 14.6 cm、頸径 10.9 cm、胴径 24.2 cm、器高 31.8 cm を測る壺で丸く外反する口縁端は上へ少しつまみ上げるような形をとっている。胴部は細身の球形で、外面頸部から胴上半にかけて磨減しているが、縦位のハケ調整を施しており、下半は縦位のヘラミガキを施している。頸部内面は、斜めにハケ調整を施している。7 は、口径 14.6 cm、頸径 10.8 cm、胴径 28.6 cm、器高 31.3 cm を測る球形に近い壺で、同じく外反する口縁端部を上下に肥厚させ、端面に 2 条の凹線を施している。頸部から胴半部にかけて細い縦位のハケ調整、胴下半～底部は、縦位のヘラミガキを施している。口縁内面には、径 3 mm の蓋用の小孔 4 孔を穿っている。6・7 は、細砂粒の目立つ淡茶褐色の同一胎土で、口縁部の手法・胴径は異なるが、同一人の製作とみられる。

IV.まとめ

今回の調査では充分な対応ができなかった。しかし、段上遺跡の年代幅及び性格をある程度把握することができた。

地表下約 1.4 m に統く黒色粘土層中の上下に弥生時代後期～中期の遺物包含層が存在し、ともに完形に近い土器群を検出した。後期の土器は、西方に位置する北島池遺跡の関連性も考えられる。中期の土器は調査地西端の若干落込んだ部分で出土した括遺物である。土器は、Ⅲ 様式古～新段階のもので、大型壺は胴下部穿孔、あるいは簾状文で飾った壺の存在等から、これらは供獻された土器である可能性があり、これらは出土状況も考え合せ、方形周溝墓の周溝内遺物と推測される。周辺に同時期の遺構が広がっていることが考えられる。

牛駒山西麓部の東大阪市域には、弥生時代の遺跡が多いが、弥生時代中期中葉頃に限定する
と鬼虎川遺跡、西ノ辻遺跡など調査の進んでいる集落跡は、別としても、現在のところ、同期
の遺物のあるいは遺構の確認されているものは、さほど多くない。

今回の調査によって、周辺に同期の方形周溝墓が存在している可能性は、合せて集落跡が近
辺に広がっている可能性があり、市域山麓南半部の弥生時代中期を中心とする1遺跡として今
後の調査に期待されるところである。

瓜生堂遺跡の調査

ガソリンスタンド建設に伴う調査—

I 調査の経過

瓜生堂遺跡については、これまで数多くの調査と報告があり、改めて遺跡の位置及び概要について記す必要もないと思われるが、これまでに行われた調査を整理すると表のとおりである。今回の調査の契機となったのは、昭和55年8月初、東大阪市の中央を南北に縦貫する府道中央環状線東沿いにあたる市内若江北町1丁目32番地の一画において給油所建設の届出が市教育委員会へ出された。工事予定地は、瓜生堂遺跡の中心部にあたっていたが、届出の工事については、タンク埋設部以外あまり支障のないものと判断し、8月22日水田の状態であった当該敷地内において試掘調査を行った。この結果、耕土下第2層目にあたる黄灰色粘土層中に、近世の陶器片・瓦器片、第3層の黄褐色粘土層中に奈良時代末以降の須恵器・土師器片をやや多く含んでいることが判明した。

タンク埋設のための掘削は、下部弥生時代中期の遺物包含層に達するものではなく、上部遺物包含層のみを掘削するものであったため、届出者と協議の上、タンク埋設部分についてのみ



第83図 瓜生堂遺跡と調査地点



第84図 調査地点周辺図

5～9m、南北12mの約85m²の部分である（第84図）

敷地自体は、道路面より約1m下った休耕田で、標高は約3.8mを測る。調査地の層序は、第85図のとおりで、上層より

第1層	耕土	第7層	黄灰色細砂層
第2層	黄灰色粘質土	第8層	暗青灰色粘土層
第3層	灰褐色粘質土	第9層	青灰色粘土層
第4層	黄灰色粘質土	第10層	黄色細砂層
第5層	灰褐色粘質土	第11層	青灰色粘土層
第6層	黄灰色中砂層	第12層	灰白色中砂層
(以下未確認)			

となっている。第1～2層中には少量の近世陶器片・瓦器片を含んでいるが、3層上面にはとくに遺構は確認できなかった。第3層灰褐色粘土層中にはやや多くの奈良時代末以降の土器片が含まれていた他古墳時代の須恵器片も若干含まれていた。

調査地の北側付近では、包含層のベース面となる第4層上面は、南側より約20cm程高く、同層は南端部の下層部確認によれば、約5～8cm程度の厚さがあるのみで、北側付近は一段高い地形をなしている。段状に高くなった部分は調査地北端を境に北側へ広がっているとみられ、これは出土遺物からも奈良時代末期以降のある時期に、相当広い範囲に古墳時代中ば以降の堆積層を含め旧地形の削平整地が行われたことによるものとみられる。

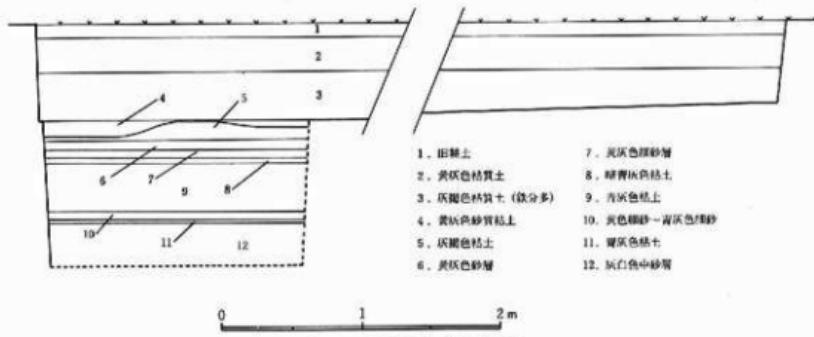
第4層上面には須恵器片が散在していたが、北端段状部斜面において須恵器平瓶（第87図-5）。調査地中央やや南西寄りで押しつぶされた状況で十脚器坏（同一-6）を検出した。また北側段状部分の東寄りで、滑石製子持勾玉（第88図）を検出するにとどまり、遺構らしいものは何ら検出できなかった。第4層以下については、トレンチで確認しただけであるが、下層は、

調査を行なった。調査は、昭和56年4月23～24日の両日に行った。調査の結果は、次に記すとおりで特に遺構の存在は確認できなかった。

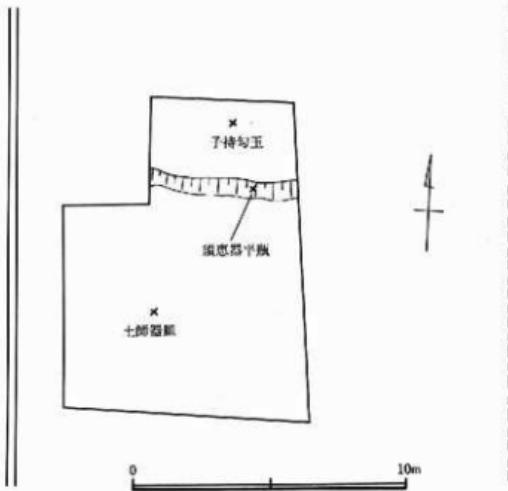
II 調査の結果

1) 層序と遺物出土状況

調査を実施した場所は、中央環状線の東側に隣接する面積540m²の敷地の中央やや西寄りの部分、東西約



第85図 調査地点の横断面図



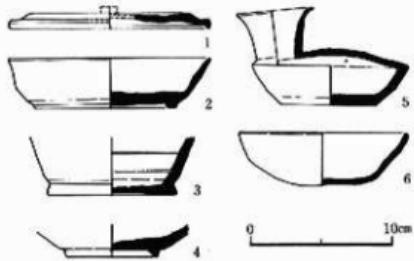
第86図 調査地平面図

第5層灰褐色粘土層の下に約1m程の黄灰～青灰色砂層と青灰色粘土層の互層(第6～12層)が続き、周辺地の層序もふまえ、弥生時代後期～古墳時代初頭と考えられる洪水期の堆積層がつづく。この間、とくに遺物は確認できなかった。敷地北側の東西道路部分では、旧耕土下約2.5～3.0m下に弥生時代中期の遺物包含層及び遺構の存在が確認されている。

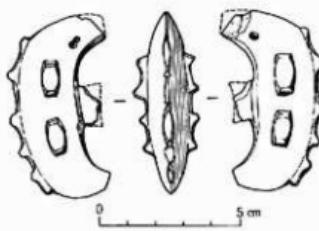
III 出土遺物

今回の調査で出土した遺物は、第87～88図のとおり、第3層より出土した須恵器壺・同蓋・壺底部・平瓶・土師器壺・縁軸壺片及び子持勾玉のほか若干の須恵器・土師器片があるのみである。

1) 須恵器 1は復原径14.4cmを測る蓋で、2は口径14.4cm、高さ3.6cmを測る浅い壺身で、高さ5mmの高台をつけている。3は短頸壺の底部破片で、底径9.2cmを測り、底内面ではきわだった高台の段は見られない。底面は糸切り底となっている。5は完形の平瓶で、口径5.6cm、



第87図 須恵器・土師器 (1/4)



第88図 子持勾玉 (1/2)

高さ 7 cm、胴径 11.2 cm、底径 6.7 cm を測り、肩部の角ばった縁を持つ小壺のものである。

2) 土師器 土師器の破片は比較的多かったが、器形の判るものとして 6 の壺がある。口径 12 cm、高さ 3.8 cm を測る。

3) 緑釉陶器 5 は中心部ほど赤みのかかった灰白色の胎上に緑釉をかけた壺底部とみられる破片で、緑釉は磨滅風化して全く光沢がなく緑白色を呈しているが、高台部分にはみられない。高台は V 字形に近く深 6.5 cm を測る。

4) 子持勾玉 この遺物は整地による二次的な遺物で、長さ 6.6 cm、幅 3.4 cm、厚さ 2.3 cm を測る。石材は緑灰色の滑石製で、両面ともていねいに磨かれており、長さ 1.5 cm、幅 8 mm、高さ 4 mm の角ばった長方形の子供の勾玉を各々 2 個削り作っている。内側腹部には、長さ 1.5 cm、幅 7 mm のやや突出した子供の勾玉 1 を作り、さらに始方状の縁にみがき上げた背部にも、不規則であるが刻目状に 3 個の子供勾玉を細工表現している。上部の紐孔は両面から穿孔されているが、中央部でづれた形で貫通されている。片面紐孔の横には、穿孔を中止した痕跡を残している。

IV まとめ

今回の調査は、瓜生堂遺跡の上層部の調査にとどまった。調査では特に遺構を確認できず、奈良時代末～平安時代初を中心とした遺物他を検出したにとどまる。本来周辺に広がっていた古墳時代の遺構・遺物が削平されていることが観察され、当時の遺物として子持勾玉等を見るのみである。

周辺の奈良～平安時代の遺構について見ると、同年に北側東西道路において下水 5 工区管渠築造工事に伴って行われた調査¹²⁾で、すぐ北側に位置する No.3 ピットの調査では第 3 層に奈良～鎌倉時代の遺物を含む遺物包含層が存在し、幅 3.4 m・深さ 34 cm の北へ続く奈良時代末～平安時代初めの溝が検出されている。また、本調査地の西側、府道中央環状線内で財团法人大阪文化財センターによって進められた近畿自動車道建設予定地内での調査¹³⁾では、すぐ西側に当たる C 地区～B 地区を中心に南北約 600 m の間に、奈良時代と考えられている掘立柱建物跡 7 棟以上、ピット、土塙などが検出されていて、周辺に存在した「若江郡衙の官人のための集落」の可

能性が十分考えられる」と報告されている。さらに西方、小阪ポンプ場の北側道路部の調査でも時期は若干降るとみられるが掘立柱建物跡1棟分が検出されている。瓜生堂遺跡も西端近く、後述する調査を契機に本遺跡範囲の拡大となったが、第二寝屋川及び旧楠根川を越えた西側に位置する市立八戸ノ里東小学校建設に伴う調査では、同時期の5棟以上の掘立柱建物跡・井戸等が検出されており、「旧楠根川を隔てた東側の瓜生堂の奈良時代集落とは別のものと推定」される報告があり、これら全ての掘立柱建物跡が同時期か比較的短期なうにによって種々考えられる所であるが、近辺に残りは悪いが相当広範囲に同時期の集落が存在していることがうかがえる。

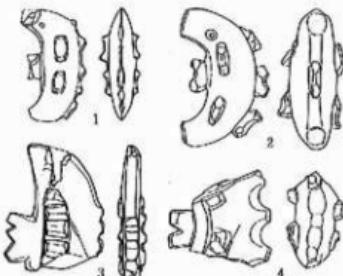
古墳時代の遺構も本遺跡では余り顯著ではなく、前述の近畿自動車道建設に伴う調査のB地区を中心とした区域に前期～中期にかけた溝、井戸、上塙等が検出されているにすぎず、後期の遺構も散見できる程度である。

今回の調査で出土した子持勾玉は、比較的ていねいに作られたもので、5世紀後半頃のものと考えられる。市内では牛駒山麓の縄手遺跡内のえの木塚古墳出土例、山畠22号墳石室内出土例、横小路町大賀世古墳西南地点出土例があるが、いづれも墓室・祭祀上の遺物として把えられる。

今回出土の子持勾玉の出土状況は、既に記したように、奈良時代以降の包含層中の単独の出土で、周辺における同時期の遺構との関連をみても、特に意義付けられるものはないが、前述の瓜生堂遺跡西端部にあたる市立八戸ノ里東小学校の調査では、多量の円筒・形象埴輪が出上り、遺跡の南側巨磨寺遺跡の調査では削平された5世紀後半～6世紀初の方形墳が検出されており、瓜生堂遺跡内及び周辺には削平・破壊を受けた古墳の存在が注目されるところであるが、子持勾玉はこうした古墳あるいは関連する祭祀遺構と関係する遺物であったとみられる。

参考文献

- 『東大阪市文化財協会年報1983年度』「瓜生堂遺跡・西岩田遺跡発掘調査概報」 1984. 3 財団法人東大阪市文化財協会
- 『瓜生堂—近畿自動車道天理～吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書』 昭和55年3月 大阪府教育委員会・財団法人大阪文化財センター
- 『瓜生堂上層遺跡・墨池遺跡発掘調査報告』 1979. 3 東大阪市遺跡保護調査会
- 『山畠古墳群1』「山畠22号墳の調査」 1973. 3 東大阪市教育委員会
- 『枚岡市史 第1巻 本編』 昭和42年1月 枚岡市役所



第89図 市内出土の子持勾玉

1. 瓜生堂遺跡 3. 横小路町出土
2. えの木塚古墳 4. 山畠22号墳石室内

表5 瓜生堂遺跡調査一覧

工事區出しに係る小規模試掘は含まず

順	調査名	調査箇所	調査面積	調査主体(者)	調査期間	備考
1	瓜生堂遺跡の発見(A地点の調査・遺物採集)	中央電力株子定地内工事用木造倉庫裏 (矢作川左岸、若江西新町 1丁目2番地北)	幅5m 南北200m	荻田昭次氏	昭和40年2月	瓜生堂、石室、古墳判別追片(城東 大野町内市道北矢作川線)出土した標題追片。 昭和41年5月「近畿考古叢書」1940. 12 等グループ「瓜生堂遺跡」1940. 12
2	第二寝屋川開削工事現場における木棺等の発見・調査 (B地点)	第二寝屋川開削工事現場 (東側河岸、矢作川新町 2丁目22・23番地北)	約100m間	荻田昭次氏他	昭和41年9月	
3	第二寝屋川開削工事現場における貝塚層の発見・調査 (C地点)	第二寝屋川開削工事現場 (西側河岸、若江西新町 1丁目13番地北)	20m ²	瓜生堂遺跡調査グループ	昭和41年11月5～ 7日	大阪府立花博高校地質部「河内古代遺跡の研究」 昭和45年8月
4	第二寝屋川開削工事に伴う瓜生堂遺跡(C地点) の発掘調査	第二寝屋川開削工事現場 (西側河岸、若江西新町 1丁目10番地北)	673m ²	大阪府教育委員会他	昭和41年11月19日 昭和42年1月18日	大阪府教育委員会『東大阪市瓜生堂遺跡の調査』 1967. 4
5	市立労働会館建設に伴う瓜生堂遺跡の試掘調査	若江西新町2丁目13番地			昭和44年	
6	中央南幹線管渠施設工事に伴う瓜生堂遺跡の試掘 及び発掘調査	中央南幹線内中央支幹管 (西側、若江西新町 1丁目13番地北)	64m ² ×2ヶ所 128m ²	中央南幹線内西岩田・ 瓜生堂遺跡調査会	昭和46年2月24日 昭和46年3月25日	
7	中央南幹線管渠施設工事に伴う瓜生堂遺跡の発掘調査	中央南幹線内中央支幹管 (内西端、西側河岸)	250m区間 1250m ²	〃	昭和46年5月4日 昭和46年7月24日	中央南幹線内西岩田・瓜生堂遺跡調査会 『瓜生堂遺跡-中央南幹線下水管渠施設に伴う 調査調査報告』1971. 12
8	中央南幹線管渠施設工事に伴う瓜生堂遺跡の発掘調査	中央南幹線西側・小浜 ボンプ場北側道路	200m区間 1000m ²	〃	昭和46年8月23日 昭和46年11月23日	
9	市公共下水道中部第2排水区若江分区下水管渠施設 工事に伴う瓜生堂遺跡の発掘調査(1～2次調査)	瓜生堂1丁目(イズミヤ 西側・中央支幹管施設 小浜ボンプ場内、中で環 状構造内水道管敷設部)	500m区間 幅5.5 約2500m ²	〃	昭和46年12月1日 昭和47年12月16日	瓜生堂遺跡調査会『瓜生堂遺跡 II』1973. 3 『瓜生堂遺跡調査報告』1973. 3 昭和47年5月1日付、瓜生堂遺跡調査会と改称
10	ビル建設に伴う瓜生堂遺跡の発掘調査	若江西新町1丁目17番地	200m ²	〃	昭和47年4月17日 昭和47年5月16日	瓜生堂遺跡調査会『瓜生堂遺跡 II』1973. 3
11	小浜ポンプ場増設工事に伴う瓜生堂遺跡の発掘調査	若江西新町1丁目20番地 小浜ポンプ場内	約300m ²	〃	昭和48年9月12日 昭和49年3月31日	瓜生堂遺跡調査会『瓜生堂遺跡 III』1981. 3 『り方河跡遺跡調査の経緯と内源土体調査』
12	共同住宅建設に伴う瓜生堂遺跡の試掘調査	瓜生堂1丁目184-1番 地		瓜生堂遺跡調査会	昭和48年11月1日	
13	ガソリンスタンド建設に伴う瓜生堂遺跡の試掘調査	若江西新町1丁目27- 2、128-2番地	〃		昭和48年12月？	

No.	調査名	調査箇所	調査面積	調査主体(者)	調査期間	備考
14	近畿自動車道天理～吹田線建設予定地内、瓜生堂遺跡(總5遺跡)第1次発掘調査	中央原状線内	2ヶ所	財団法人大阪文化財センター	昭和49年5月1日 昭和49年9月27日	財団法人大阪文化財センター「近畿自動車道天理～吹田線建設予定地内瓜生堂遺跡5遺跡発掘調査報告書」昭和50年3月
15	近畿幹線河内ライガス導管設工事に伴う瓜生堂遺跡他の発掘調査	中央原状線西側歩道部	?	東大阪市遺跡保護調査会	昭和49年9月26日 昭和50年2月10日	
16	上水道配水管敷設工事に伴う調査	中央原状線西側歩道部	トレンチ	東大阪市遺跡保護調査会	昭和50年2月3日 昭和50年4月18日	
17	小阪ポンプ場増設工事に伴う瓜生堂遺跡の発掘調査	小阪ポンプ場内東北角～西区域		瓜生堂遺跡調査会	昭和50年9月12日 昭和51年3月31日	瓜生堂遺跡調査会「瓜生堂遺跡Ⅱ」1981.3
18	ガス管理段に伴う瓜生堂遺跡の試掘調査			*	昭和51年	
19	八戸ノ里第3ガーデンハイツ新築工事に伴う埋蔵文化財包蔵地の試掘調査・及追加試掘調査	西若田3丁目48、52・4他	4ヶ所 100m ²	*	昭和51年3月1日 昭和51年5月29日	瓜生堂遺跡調査会「西若田・瓜生堂遺跡試掘調査報告書」1976.4
20	若江石切堀瓦斯管埋設工事に伴う瓜生堂遺跡他の発掘調査	中央原状線西側歩道部	トレンチ	東大阪市遺跡保護調査会	昭和51年11月15日 昭和52年5月30日	財団法人大阪市埋蔵文化財センター「昭和51年度・52年度瓦斯管埋設工事」1984.3
21	上水道配水管敷設工事に伴う瓜生堂遺跡他の発掘調査	中央原状線西側歩道部	トレンチ	*	昭和51年9月4日 昭和52年1月20日	
22	八戸ノ里第4ガーデンハイツ建設に伴う瓜生堂遺跡の試掘調査	瓜生堂1丁目117～120番地他		瓜生堂遺跡調査会	昭和52年3月1日	瓜生堂遺跡調査会「瓜生堂遺跡Ⅲ」1981.3
23	(仮称)八戸ノ里小学校分校建設工事に伴う埋蔵文化財包蔵地の試掘調査	下小阪4丁目268～273番地他	25m ² × 5ヶ所	東大阪市遺跡保護調査会	昭和52年6月1日 昭和52年8月13日	瓜生堂遺跡調査会「瓜生堂上野遺跡・田地裏古墳群発掘調査」1979.3
24	(仮称)八戸ノ里小学校分校建設工事に伴う瓜生堂遺跡の発掘調査	下小阪4丁目268～273番地他(北側校舎部)	1000m ²	*	昭和53年1月9日 昭和53年3月11日	
25	市公共下水道第33工区管渠渠造工事に伴う瓜生堂遺跡の発掘調査	若江西新町1丁目21～31番地先南北道路		瓜生堂遺跡調査会		
26	近畿自動車道天理～吹田線建設予定地内瓜生堂遺跡の発掘調査	中央原状線内分離帯部 西半幅脚部	南北540m区間	大阪府教育委員会 財団法人大阪文化財センター	昭和53年3月 昭和54年12月	大阪府教育委員会(財)大阪文化財センター「瓜生堂遺跡発掘調査報告書」昭和53年3月 財団法人大阪文化財センター「吹田線建設予定地内瓜生堂遺跡の発掘調査を中心とした調査」1981.3

No.	調査名	調査箇所	調査面積	調査主体(者)	調査期間	備考
27	八戸ノ里第4 ガーデンハイツ新築工事に伴う瓜生堂遺跡の発掘調査	瓜生堂1丁目 117~120番地他	トレンチ 2 本	瓜生堂遺跡調査会	昭和53年4月21日 昭和53年8月20日	
28	小阪ポンプ場増設工事に伴う瓜生堂遺跡の発掘調査	小阪ポンプ場内施設 北側敷地	2400m ²	*	昭和53年8月22日 昭和54年3月25日	瓜生堂遺跡調査会「瓜生堂遺跡調査」1991.3 （昭和53年8月22日～昭和54年3月25日） （昭和53年8月22日～昭和54年3月25日）
29	小阪ポンプ場増設工事に伴う瓜生堂遺跡の発掘調査	小阪ポンプ場内西南端 電気室増築部	300m ²	*	昭和53年8月21日 昭和53年12月20日	
30	住宅建設に伴う瓜生堂遺跡の発掘調査	若江北町1丁目45番地	トレンチ 2ヶ所	東大阪市考古委員会	昭和54年12月	東大阪市考古委員会「若生堂遺跡調査報告書」1990.3
31	ガソリンスタンド建設に伴う瓜生堂遺跡の発掘調査	若江北町1丁目	85m ²	*	昭和56年4月23日 昭和56年4月24日	本標識
32	八戸ノ里東小学校校舎増築工事に伴う瓜生堂遺跡の発掘調査	下小阪4丁目 北側校舎西端増築部	100m ²	*	昭和56年8月17日 昭和56年9月3日	
33	公共下水道第5工区管渠造工事に伴う瓜生堂遺跡の発掘調査	若江北町1丁目 東西市道部	250m区間内 89m ²	東大阪市遺跡保護調査会	昭和56年8月10日 昭和56年11月17日	
34	公共下水道第11工区管渠造工事に伴う瓜生堂遺跡の発掘調査	若江西新町1丁目 16、18番地先南北市道	30m区間内 45m ²	*	昭和56年10月17日 昭和56年11月7日	財団法人東大阪市文化財保存会「東大阪市古跡 遺跡調査報告書」1994.3
35	公共下水道第324工区管渠造工事に伴う瓜生堂遺跡の発掘調査	若江北町1丁目	105m区間内 120m ²	財團法人東大阪市文化財協会	昭和57年11月15日 昭和58年1月13日	
36	公共下水道第113工区管渠造工事に伴う瓜生堂遺跡の発掘調査	若江西新町1丁目	190m区間 約190m ²	*	昭和58年5月9日 昭和58年6月11日	昭和57年3月24日東大阪市文化財保護調査会 財團法人東大阪市文化財保存会「東大阪市古跡 遺跡調査報告書」1994.3
37	倉庫建設に伴う瓜生堂遺跡の発掘調査	若江西新町1丁目	283m ²	*	昭和61年	本標識

西岩田遺跡第8次試掘調査概報

I. 調査に至る経過

大阪中央環状線沿い、意岐部交差点と近鉄奈良線高架との中間、東大阪市西岩田2丁目、3丁目付近は、周知の埋蔵文化財包蔵地、西岩田遺跡に含まれる。1965年、中央環状線工事に伴う水道管埋設工事に際して、荻田昭次氏が本遺跡を発見して以来、数次にわたる調査の結果、弥生時代後期から古墳時代、および歴史時代（奈良～室町時代）の遺跡であることがわかつていている。また、その範囲は、西岩田2丁目、3丁目の直径約500mの范围内におよぶと推定される。

1980年、西岩田2丁目246番地付近で、共同住宅および休日診療所建設が予定された。当時この予定地内における埋蔵文化財の存否は不明瞭であった。このため、東大阪市教育委員会は東大阪市遺跡保護調査会に試掘調査の委託を依頼した。同調査会では検討の結果、調査を受託し、現地での調査を1980年7月16日から8月13日の期間実施した。なお、本試掘調査の結果、建設予定地には、重要な遺構が存在しないと判断され、本調査実施には至らなかった。

II 西岩田遺跡の位置と環境

西岩田遺跡は先述の地番に所在するが、同地は河内平野の中央部、旧大和川の形成した氾濫原の一画を占める。弥生時代中期以前には、さらに南の瓜生堂遺跡付近に汀線があったが中期末以後古墳時代に至る沖積作用の活発化によって、この西岩田遺跡周辺の陸化が進んだ。したがってその遺跡形成は弥生時代後期以後である。いっぽう、西岩田遺跡以北は「河内湖」と呼ばれる水域が拡がり、同遺跡は当時形成されつつあった三角州の先端に位置する。このことは、



第90図 西岩田遺跡周辺図 (1/50,000)

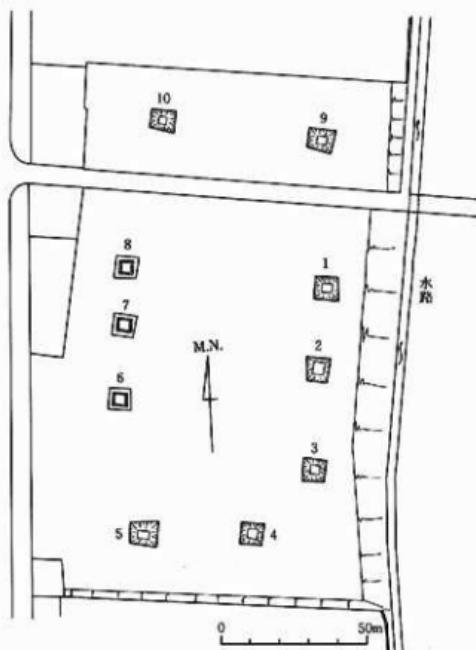
一般的には水路を通じての他地域との交流を示唆し、実際古墳時代の出土土器に他地域産と思われる上器が目立つことがこれを裏づけている。

西岩田遺跡から旧大和川に沿ってその下流側には、古墳時代後期の意岐部遺跡、弥生時代～平安時代の土器散布地、新家遺跡がある。いっぽう上流に向っては弥生時代前期～中期の瓜生堂遺跡、山賀遺跡、弥生時代後期～歴史時代全般にわたる若江遺跡などがある。これらの分布をやや詳細にみれば、時期によってかなり錯綜しており、人間の活動や居住に対応する地形形成が、三角州の発達という大きなスケールよりもむしろ、それに含まれる微地形ないしは超微地形から説明されうる可能性を示唆している。西岩田遺跡の環境と機能的な位置を知るうえで今後の課題となる。

III. 調査概要

共同住宅および休日診療所の建物部分にあたる範囲に、現地表面で約8×8mのトレンチを合計10か所設定した。それぞれ盛土を機械掘削で除去した後、それ以下の層を現地表面から約4mの深さ(O.P.約0.7m)まで人力掘削で精査した。各トレンチとともに、掘り下げに伴って

断面に傾斜をつけねばならず、
実質的に調査した面積は8×8
mより小さい。



第91図 トレンチ位置図

1 層序

各トレンチ(以下lr.と略す)
の層序を図91～101に示す。以
下には、全体をとおして認めら
れたことがらを述べる。

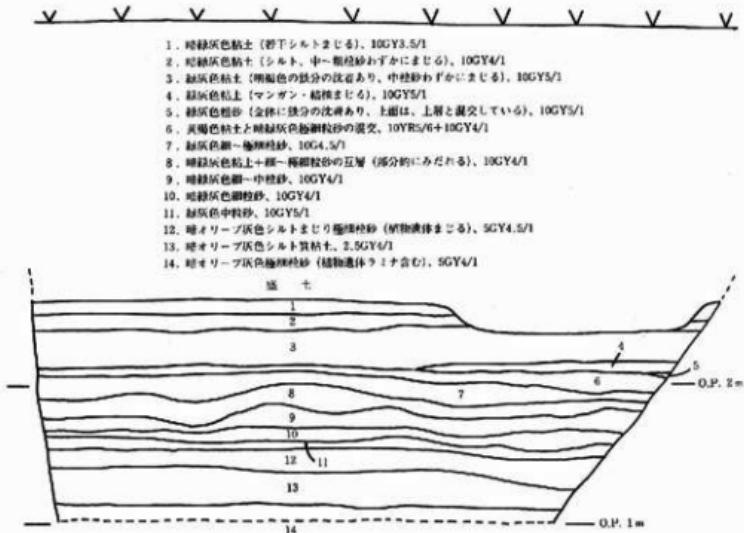
(1) 第1層以下マンガン結核
を多量に含む粘土層(1 lr.第
4層、3～7 lr.第5層、8、
9 lr.第6層、10 lr.第7層がこ
れにあたる。)は、すべてに共
通して認められる。まず、盛土
直下には、近年まで耕作地であっ
た粘土層がある。それ以下は、
鉄分の沈着を示す黄褐色の斑紋
があり、深くなるにしたがって、
マンガン結核の量が増す。この
間は主に粘土層で、砂、シルト

を混じえる。遺物の出土量はきわめて少ないが、先に示したマンガン結核を多量に含む層からは、瓦器碗、土師器小皿、火呑などの中世遺物、やや上層では染付の磁器などの近世遺物をいずれも細片で検出した。これらの層は耕作によってしばしば掘り返されたと思われ、5 tr. 第5層、6 tr. 第5層、9 tr. 第5層はそれより下層を耕作のために整地、削平された後に堆積したものと思われる。

(2) 5 tr. 第10層、6 tr. 第8層、7 tr. 第7層は、南西から北東に低い砂層で、中粒砂から極粗粒砂からなる。この傾斜の低い部分に砂を混じえた粘土やシルトが堆積しており、踏み込みの跡が断面で認められた(3 tr. 第6、7層上面、4 tr. 第8、9層上面、8 tr. 第7、8層上面、9 tr. 第7、8層上面)。6 tr. の第6層からは、和銅開珎の破片が出土した。1、2 tr. の砂層はO.P. 2m付近まで盛り上がり、きわめてゆるやかに南に向かって傾斜している。砂層は、古墳時代後期の堆積とおもわれる。

(3) ほとんどのトレンチのO.P. 1.4m付近では植物遺体や炭のラミナ、あるいはこれ含まれる粘土層が確認された。1、2 tr. では、これに対応する層は厚い砂層中に取れんするであろう。この層からは、古墳時代後期の須恵器、土師器細片と流木に混じって板材や角材の破片が若干出土している。また、所によつては、炭や植物遺体のラミナが人為的に乱されていた。

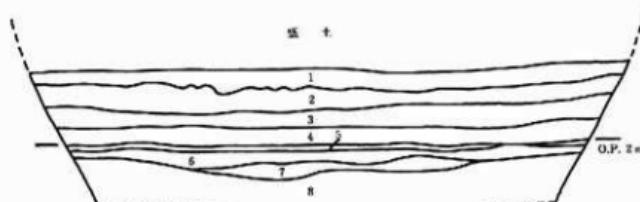
(4) 上記粘土層の下、O.P. 1.0~1.1m以下は各トレンチとも、細~中粒砂、シルト、シルト質粘土が堆積しており、比較的小さざみに粒度の変化がみとめられる。このことは、低平な



第92図 第1トレンチ北側断面図



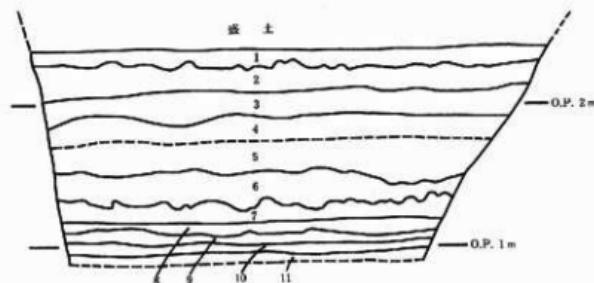
1. 單綠灰色シルトまじり粘土 (暗緑土、上面のわらの灰・緑の色が全体に混って黒っぽい)。10GY3.5/1
2. 單綠灰色粘土 (中～粗粒砂まじる、若干鉄分の斑紋あり)。10GY4/1
3. 緑灰色粘土 (中～粗粒砂まじる、暗褐色の斑紋あり)。10GY5/1
4. 暗褐色粘土 (中～粗粒砂まじる、マンガン・結核まじる)。10GY5/1
5. マンガン・結核の層
6. 沢オーラー中粒砂 (うすい鉄分の沈着あり)。7.5Y6/2
7. 緑灰色シルト質細粒砂。10GY5/1
8. 緑灰色中粒砂 (シルト～極細粒砂のカミナあり)。10GY5/1。この層かなり下まで緩く
機械掘削でO.P.50cmまで削除



第93図 第2トレーンチ北側断面図



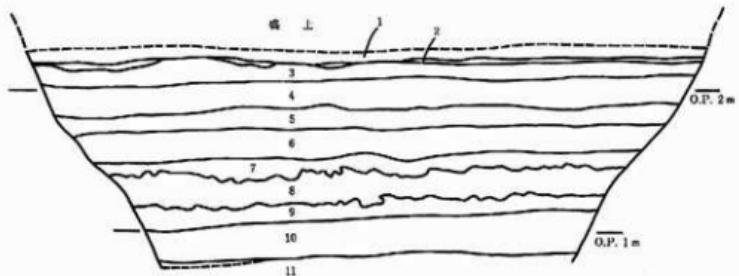
1. 單綠灰色シルトまじり粘土 (暗まじる)。10GY3.5/1
2. 單綠灰色粘土 (中～粗粒砂わずかにまじる)。10GY4/1
3. 緑灰色粘土 (鉄分の沈着あり)。10GY5/1
4. 單綠灰色粘土 (マンガン・結核否まじる)。10GY4/1
5. 單オリーブ灰色粘土 (マンガン・結核否まじる)。10GY4.5/1
6. 暗色粘土と暗綠灰色粘土の混交 (若干結核まじる)。7.5Y4/1+10GY4/1
7. 單綠灰色粘土 (深多し)。10GY4/1
8. 緑灰色中粒砂。10GY5/1
9. 暗色粘土まじりシルト (下面に炭酸第一鉄鉱結、中には植物遺体タミナ)。10Y4/1
10. 單綠灰色シルト (極細粒砂の互層)。5GY4/1
11. 暗色粘土質シルト (炭酸第一鉄鉱結まじる)。10Y4/1
12. 單オリーブ灰色シルト。5GY4/1



第94図 第3トレーンチ南側断面図



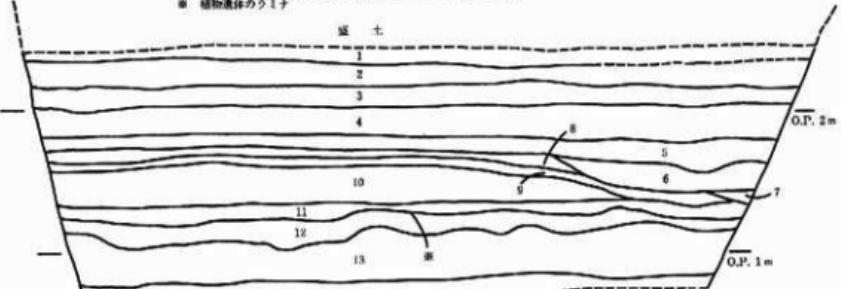
1. 暗緑灰色粘土（シルトまさる）、10GY3.5/1
2. 穆灰粘土（中～粗粒砂わざりに含む）、2.5GY4.5/1
3. 暗緑灰色粘土（中～粗粒砂わざりに含む）、10GY4/1
4. 暗緑灰色粘土（わざかに中～細粒砂含む）、10GY4/1
5. 暗緑灰色粘土（わざかに中～細粒砂含む、マンゴン結構まじる）、10GY4.5/1
6. 噴オリーブ状粘土（中～粗粒砂多）、10GY4/1
7. 沈灰粘土（沈粗粒まさる）、10Y4/1
8. オリーブ黑色粘土（植物・古頃時代堆積？まじる。炭・植物遺体のラミナが埋没された状態でみとめられた）、5Y3/1
9. 噴オリーブ状粘土（炭・および植物遺体細片多く含む）、2.5GY4/1
10. 沈灰シルト質粘土（シルトラミナ含む）、10Y5/1
11. 噴オリーブ状粘土（植物遺体含む）、2.5GY4/1



第95図 第4トレンチ北側断面図



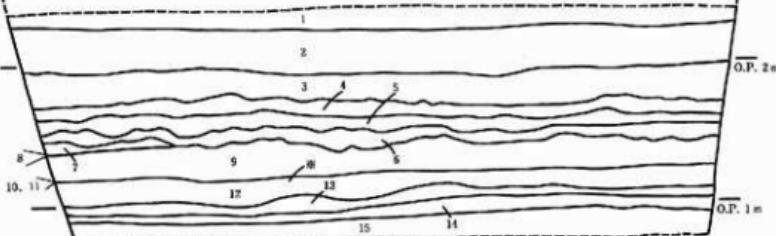
1. (固壁土)
2. 暗緑灰色シルトまさる粘土、10GY4/1
3. 暗緑灰色粘土（中～粗粒砂わざりに含む）、10GY4/1
4. 沈灰粘土上（中～粗粒砂わざりに含む、下部にマンゴン結構少しある）、10GY4.5/1
5. 沈灰シルト（中～粗粒砂まさる）、10Y5/1
6. 暗緑灰色粘土（中～粗粒砂少しある）、10GY4/1
7. 暗緑灰色粘土（中～粗粒砂少しある）、10GY3.5/1（第6層より始む）
8. 沈灰色シルト粗粒砂、5Y4/3
9. 暗緑灰色粗粒砂（シルト互層）、5GY4/1
10. 沈灰色シルト粗粒砂、10GY4/1
11. オリーブ褐色粘土、5Y3/1（上面に木材出土）
12. 噴オリーブ状粘土（植物遺体のラミナを含む、木材出土）、5GY4/1
13. 噴オリーブ状粘土質粘土、2.5GY4/1
14. 沈灰シルト質粘土（極細粒砂、植物遺体のラミナ含む）、10Y4/1
- 植物遺体のラミナ



第96図 第5トレンチ北側断面図

1. 暗緑灰色粘土 (印模土), 10GY3.5/1
 2. 暗緑灰色粘土 (暗-粗粒砂, シルト, 粘, わざかにまじる。鉄分の沈着層下あり), 10GY4/1
 3. 緑灰色粘土 (シルト-中粒砂まじる) 10GY3.5/1
 4. 緑オーブ状色中-粗粒砂まじり粘土 (マンガン粗粒少しまじる), 7.5GY4/1
 5. オリーブ状色中-粗粒砂まじり粘土 (マニガン粗粒集中する) 2.5GY4/1
 6. 緑オーブ状色粘土 (シルト, 粗粒砂少しまじる) 2.5GY4/1
 7. 緑灰色粘土 (第6層と類似), 7.5YRS/1
 8. 青灰色中-粗粒砂, 5BGG/1
 9. 緑灰色シルトまじり粘土, 7.5YRS/1
 10. 灰色粘土, 5Y/1
 11. 植物遺体の？；ナラ木たる木。
 12. 緑灰色粘土, 10GY4/1
 13. 暗緑灰色シルト-粗粒砂鉄分, 10GY4/1
 14. 緑オーブ状色シルト-粗粒砂鉄分, 2.5GY4/1
 15. 暗緑灰色粗粒砂鉄分シルト, 10GY4/1
 第一第12層上面にうすい泥・植物遺体のツミ

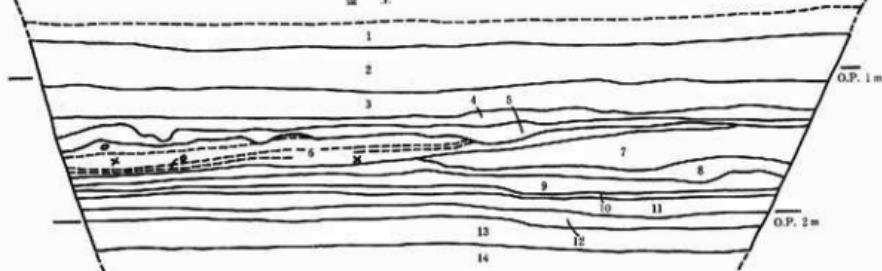
断面図



第97図 第6トレンチ北側断面実測図

1. 暗緑灰色粘土 (シルト-泥まじる。印模土上), 10GY3/1
 2. 暗緑灰色粘土 (暗-粗粒砂, シルト, 粘, わざかにまじる。鉄分の沈着あり), 10GY4/1
 3. 緑灰色粘土 (シルト-粗粒砂少しまじる), 10GY4.5/1
 4. 緑オーブ状色中-粗粒砂少しまじり粘土 (マンガン粗粒少しまじる), 2.5GY4/1
 5. オリーブ状色中-粗粒砂少しまじり粘土 (マニガン粗粒集中する), 2.5Y/3
 6. 4リーブ黄色中-粗粒砂少しまじり粘土 (マニガン粗粒集中する), 5Y6/3+5G4/1
 7. オリーブ状色中-粗粒砂 (下部はほりきり少し), 5Y6/3
 8. 暗緑灰色粗粒砂, 5GA/1
 9. 灰色シルト質粘土, 7.5Y/1
 10. 灰色粘土 (上から植物遺体一枚・植物遺体のツミで2cm), 10Y4/1
 11. 暗緑灰色シルト質粘土 (灰・植物遺体のツミを含む), 7.5GY4/1
 12. 暗緑灰色粗粒砂, 10GY4/1
 13. 暗オーブ状色シルト-粗粒砂鉄分の互層, 2.5GY4/1
 14. 暗緑灰色粗粒砂シルト, 10GY4/1 (上面ないしは13層下部より本鉄分土)

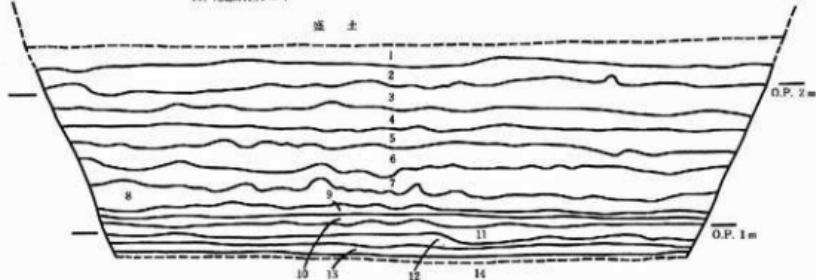
断面図



第98図 第7トレンチ南側断面図

▽ ▽ ▽ ▽ ▽ ▽ ▽ ▽ ▽ ▽ ▽ ▽ ▽ ▽ ▽

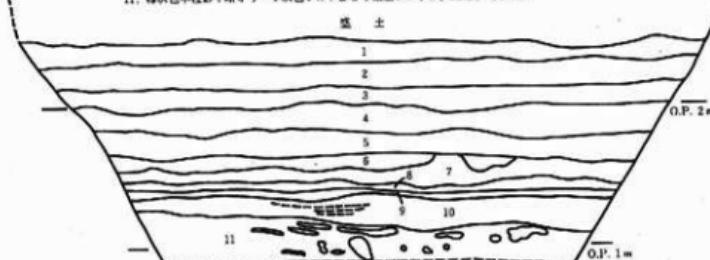
1. 塙緑灰褐色土 (川縁土、中粒砂、シルトまじる)、10GY4/1
2. 塙緑灰褐色土 (中粒砂、シルトまじる)、10GY4.5/1
3. 緑灰褐色土 (シルト、中一粗粒砂まじる。部分の沈着あり)、SG4.5/1
4. 緑灰褐色土～細粒砂まじり粘土 (マンガン結晶含む)、10GY4.5/1
5. オリーブ灰褐色土～細粒砂まじり粘土 (マンガン結晶含む)、2.5GY1.5GY4.5/1
6. 細粒砂まじり粘土 (マンガン結晶集中する)、2.5GY4/1
7. 塙緑灰褐色土 (部分の沈着あり)、10GY4/1
8. 塙緑灰褐色土 (底の側面まで)、2.5GY3.5/1
9. 塙オリーブ灰褐色土 (底および植物遺体のカミナ含む)、2.5GY4/1
10. 塙褐色粘土 (上層とまじる)、7.5GY4/1
11. 塙緑灰褐色土 (上面に淡いラミナあり)、2.5GY4/1
12. 塙緑灰褐色シルトと塙オリーブ灰褐色土の互層、10GY3.5/1+2.5GY3.5/1
13. 塙オリーブ灰褐色シルトまじり粘土
14. 塙緑灰褐色土



第99図 第8 トレンチ南側断面図

▽ ▽ ▽ ▽ ▽ ▽ ▽ ▽ ▽ ▽ ▽ ▽ ▽

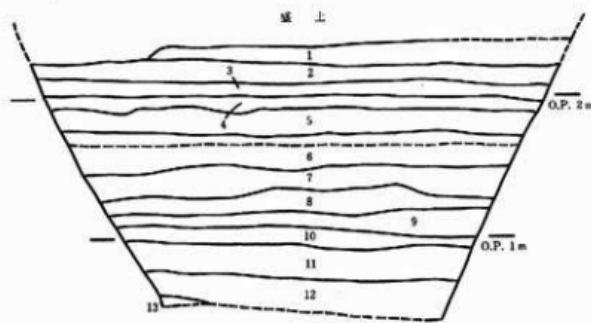
1. 塙緑灰褐色土 (シルト若干まじる)、SG3.5/1
2. 塙緑灰褐色土 (わざわに～粗粒砂まじる。若干該分の沈着あり)、SG4/1
3. 緑灰褐色土 (膠～粗粒砂わずかにまじる)、10GY4.5/1
4. 緑灰褐色土～黃褐色土 (該分の沈着あり。中～粗粒砂まじる)、10GY3.5/1+10YR5/8
5. 黄灰褐色シルトまじり粘土 (マンガン結晶できかけ、バサバサの上)、10GY3.5/1+10YR5/8
6. 黄灰褐色シルトまじり粘土 (第5層よりマンガン結晶多し)、SG3/1+10YR5/8
7. 塙灰褐色シルトまじり粘土 (下面および上面にシルトラミ)、10GY4/1
8. 塙オリーブ灰褐色土 (色はっぽい赤土と黄灰褐色土の混合。他のビットではもっと厚い)
9. 塙オリーブ灰褐色シルトまじり粘土、SG4/1
10. 塙褐色粘土 (この部分、淡とシルトのラミナが層くらいくる)、10GY3.5/1
11. 緑灰褐色中粒砂+塙オリーブ灰褐色シルトまじり粘土ブロック、SG3/1+SGY4/1



第100図 第9 トレンチ北側断面図



1. 喀斯特灰土シルトまじり粘土（炭化土）、10GY3.5/1
2. 喀斯特灰土シルトまじり粘土（若干鉄分の沈着あり）、10GY4/1
3. 喀斯特灰土シルト粘土（下半にシルト多し、鉄分の沈着あり）、7.5GY4/1
4. 第3層、第5層の混合
5. 細色粘土（中～細粒砂若干まじる）、10GY4.5/1
6. 喀オリーブ灰土粘土（——より上鉄分の沈着、下はマンガン粘土まじる）、7.5GY4.5/1
7. 細色粘土上はマンガン粘土（他のビットほど多くない。金合間に黄色っぽい）、10GY4.5/1
8. 灰色粘土上+喀斯特灰土粘土との混合（全体に炭化土）、SY3.5/1±7.5GY
9. 喀オリーブ灰土シルト質粘土（植物遺体・炭化土）、2.5GY4/1
10. 喀オリーブ灰土シルト質粘土（植物遺体のラミナ、炭化土）、5GY4/1
11. 喀オリーブ灰土シルト質粘土（植物遺体のラミナ含む）、5GY4/1
12. 喀オリーブ灰土シルト質粘土シルトの互層
13. 喀斯特灰土—中粒砂レンズ状、10GY6.5/1



第101図 第10トレンチ北側断面図

場所を異なる流速の水が断続的に流れたことを示す。

2. 遺物

出土遺物をトレンチごとにまとめて記す。

3 tr. 第2層；中世～近世の上器細片、4 tr. 第7層；古墳時代後期須恵器、土師器片。5 tr. 第10層；須恵器細片。第11、12層加工木片。6 tr. 第4層；中世～近世土器破片、第6層；和銅開珎破片、第7層；土師器細片。7 tr. 第6層；弥生時代後期土器（二次堆積）、第14層；木製容器破片、木材片。8 tr. 第6層；土師器細片。9 tr. 第5層；須恵器破片。10tr. 第9層；古墳時代初頭と思われる土師器壺口縁部。

IV. まとめ

今回の調査では、出土遺物がきわめて少なく、各層位の年代決定には、若干の不安もあるが、概ね、次のような時代の堆積層が確認された。すなわち(1)弥生時代後期～古墳時代初頭および後期の層で、これらは付近を流れていた河道の堆積作用と直接関連するものである。調査範囲は蛇行の内側に形成されたポイント・バーにあたると考えられる。(2)歴史時代初期、8世紀前後の堆積層、(3)歴史時代、中世～近世、近代までの堆積層で、これは下層の弥生時代以後の層とは不整合を生じておらず、何らかの削平をうけた後堆積し始めた耕作土と考えられる。

以上の各層位の堆積環境の推測から、西岩田遺跡の景観復元を行なうことが、今後の課題である。

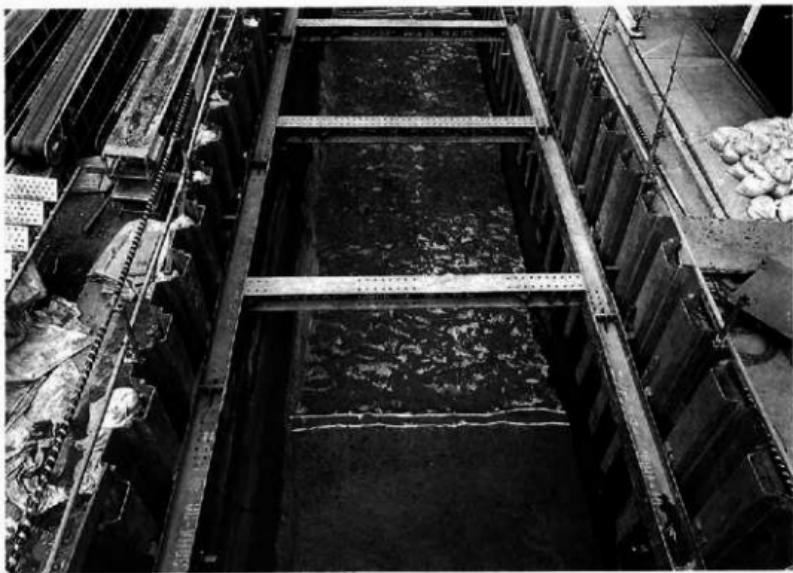
謝辞 層位について御教示を賜った那須孝梯先生と、炎天下にもかかわらず調査に参加された以下の補助員諸氏に感謝します。

室谷勝美、空谷 豊、浦元秀俊、宮崎恵三、高石俊哉、谷川光郎、宮本敦司、小梅 型、橋本栄治、山本廣司、石原康弘、浜田洋一、畠 雅彦、有山淳二

(順不同)

図 版

図版1 稲葉遺跡 遺構



1. 水田畦畔（東より）



2. 水田畦畔東半部（北より）



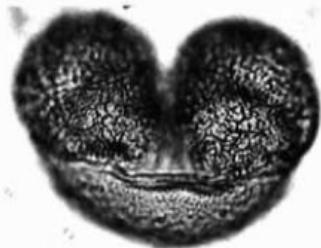
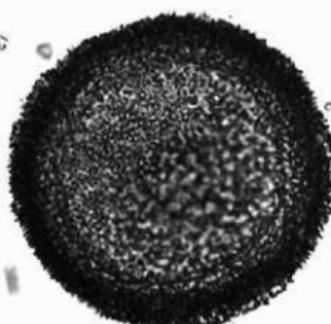
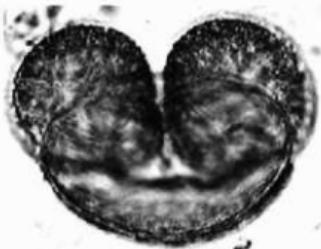
1. 水田畦畔（西より）



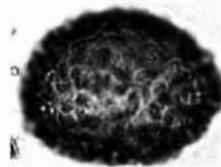
2. 調査地点全景

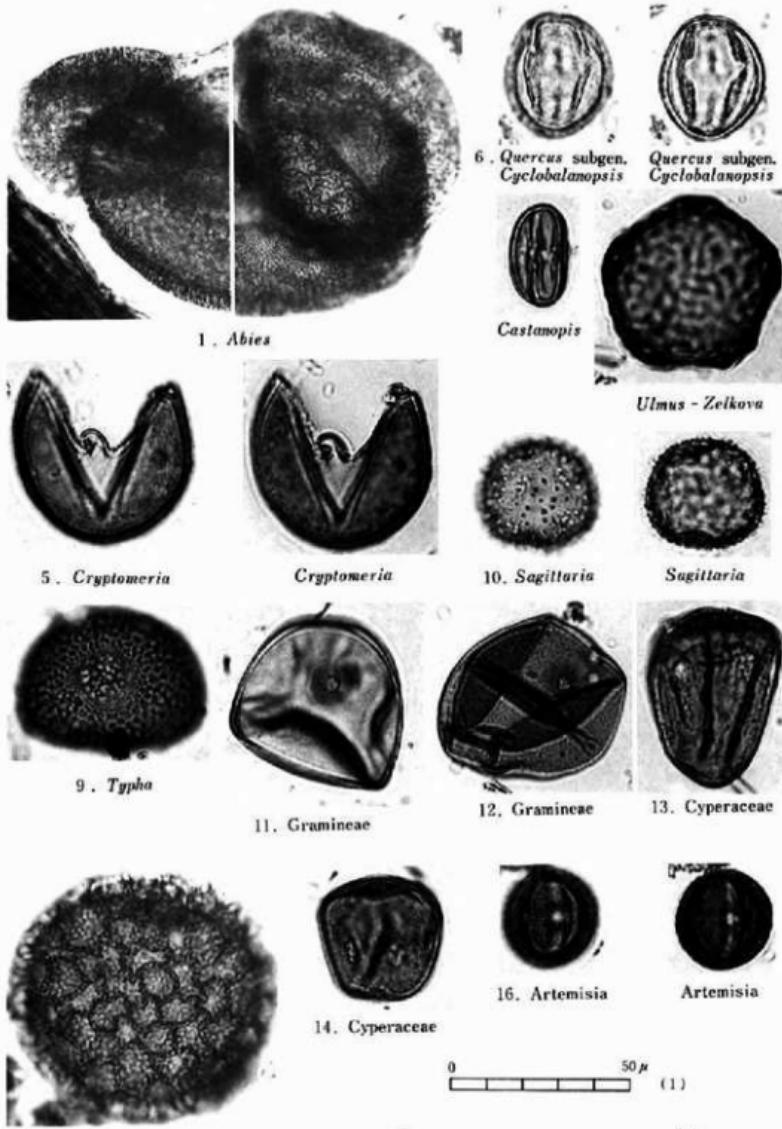


1. 上部水田畦畔断面

3. *Pinus*2. *Tsuga*

Pinus

4. *Sciadopitys*



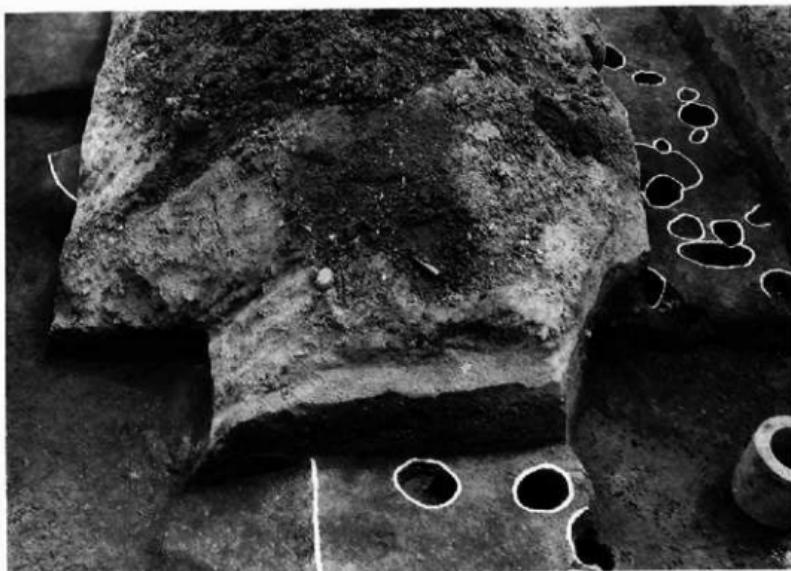


1. 弓生時代中期遺構（西より）



2. 弓生時代中期遺構（南より）

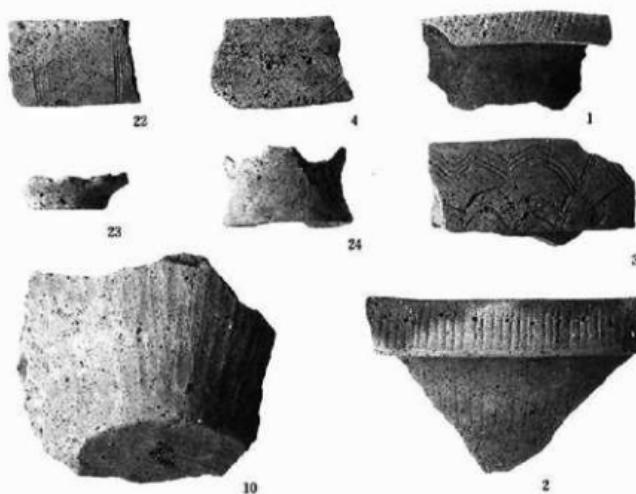
図版 6 西ノ辻遺跡 遺構



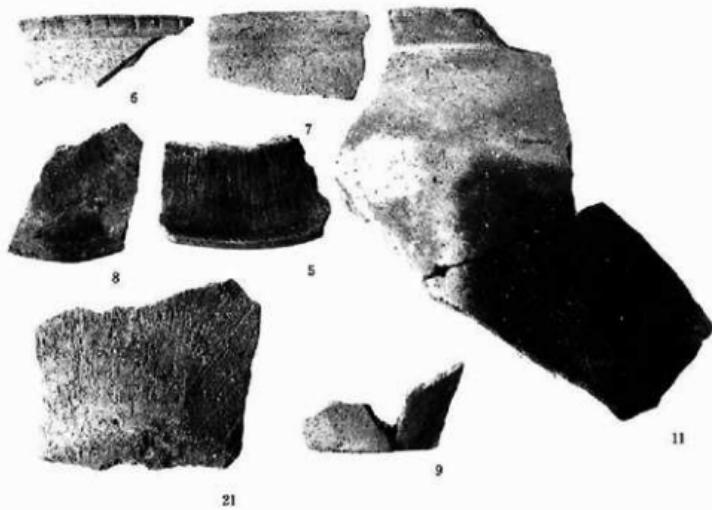
1. 弓生時代中期遺構（北より）



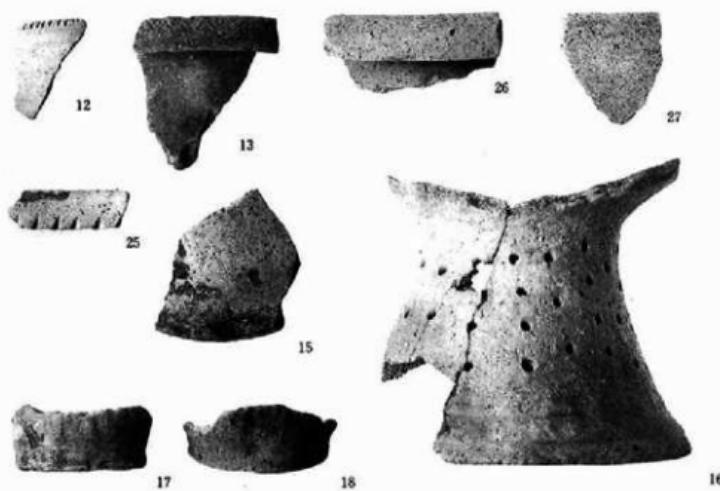
2. 溝 2（南より）



1. 溝1出土土器



2. 溝1出土土器

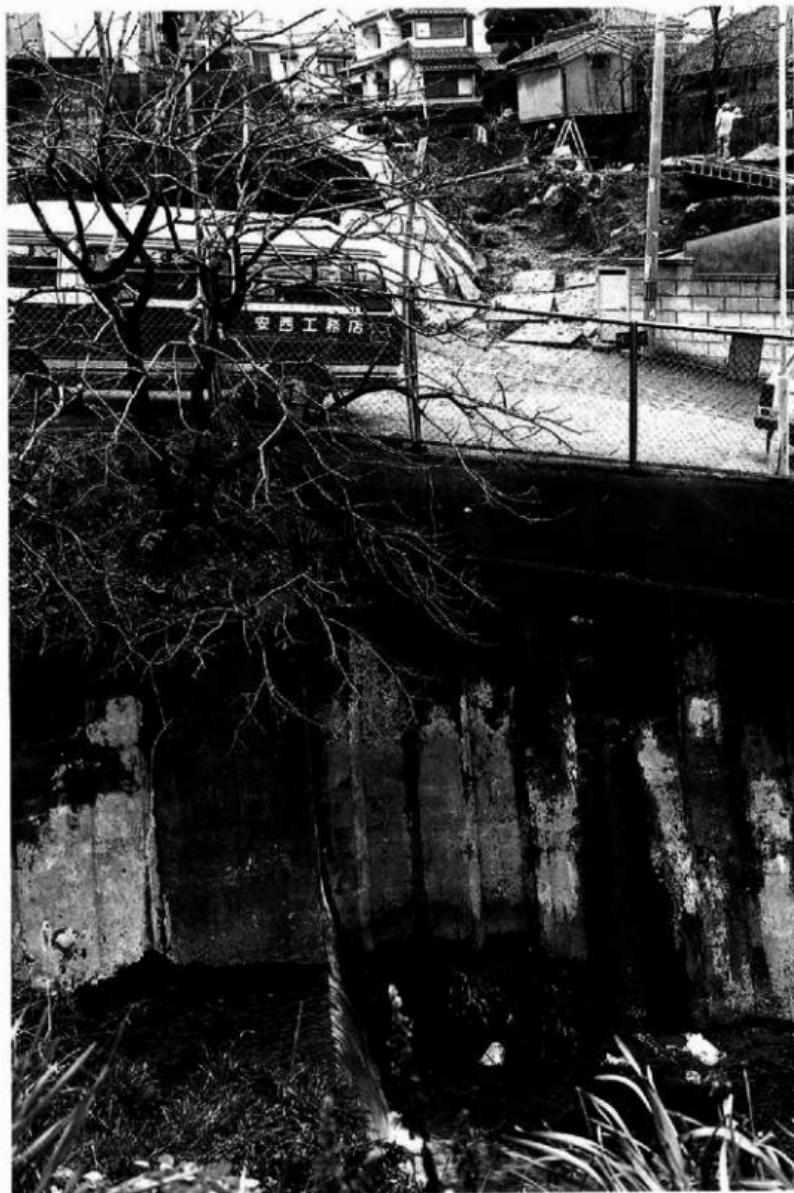


1. 溝2出土土器



2. 溝1、2出土打製石器

3. 溝2出土土器





1. 段 検出状況



2. 段 検出状況



1. 4ライン東西断面



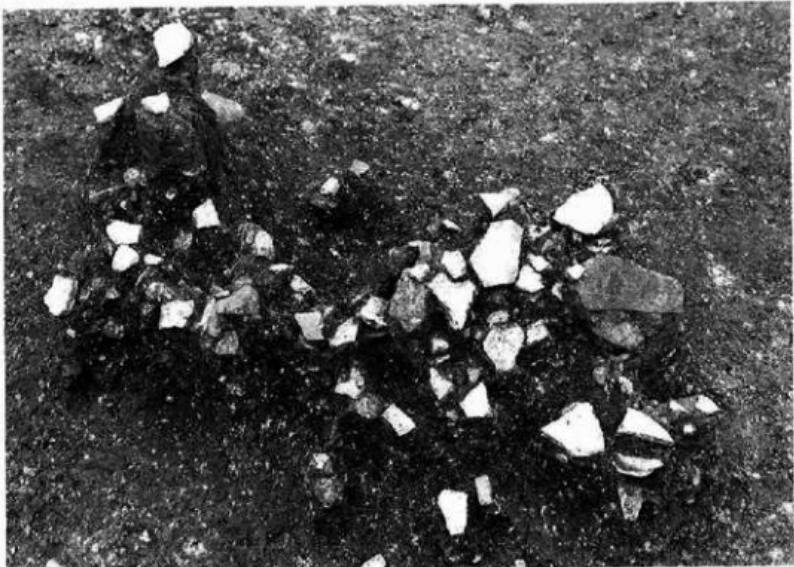
2. トレンチ北壁断面



1. 遺物出土状況全景



2. 土器出土状況（部分）



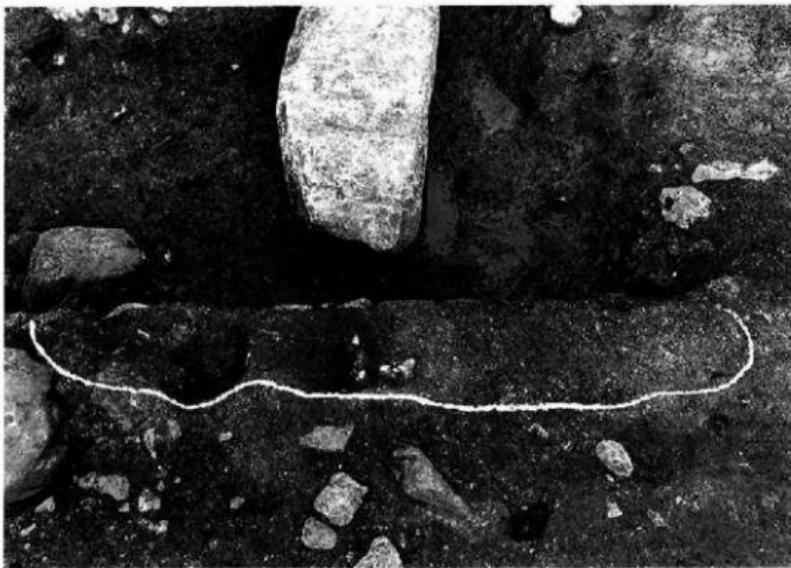
1. 土器出土狀況（部分）



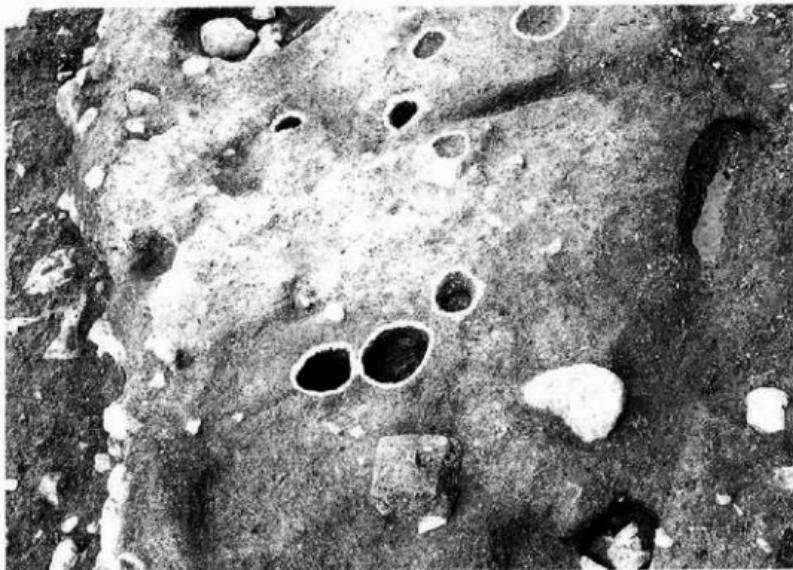
2. 珠文鏡出土狀況



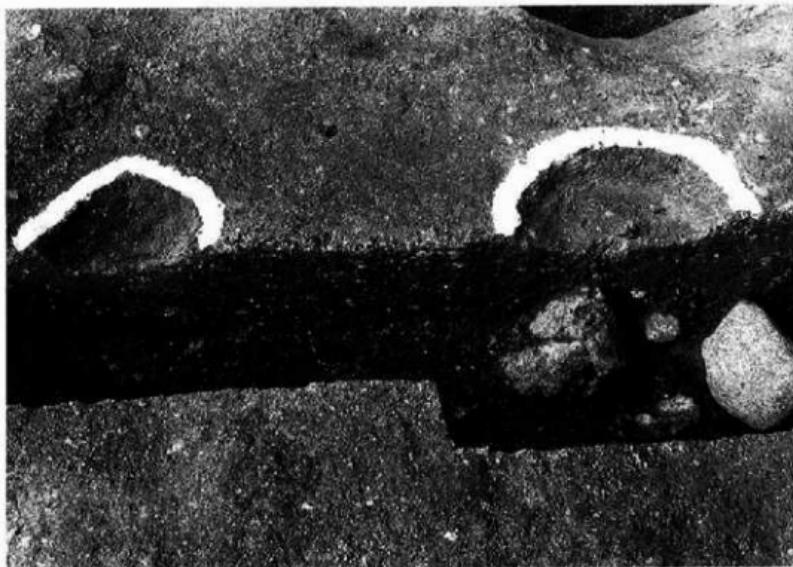
1. 地山上面遺構検出状況全景



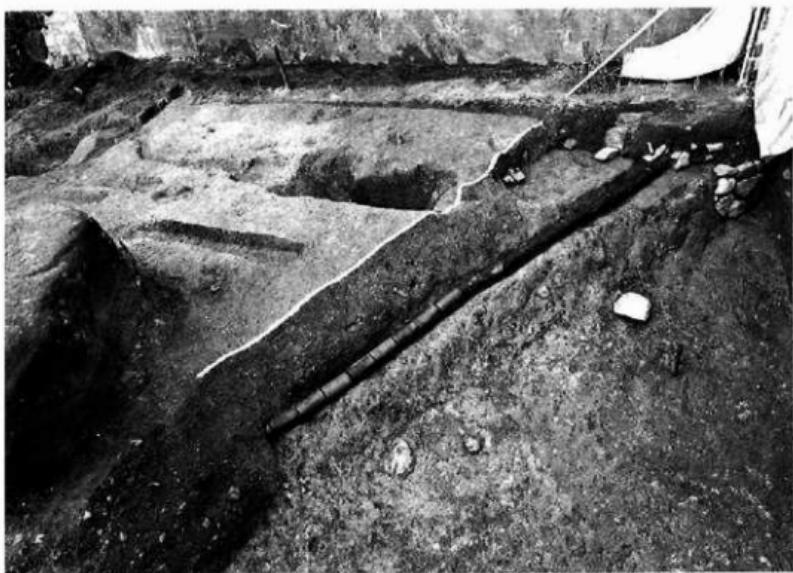
2. 土壙 1 検出状況



1. Pit検出状況



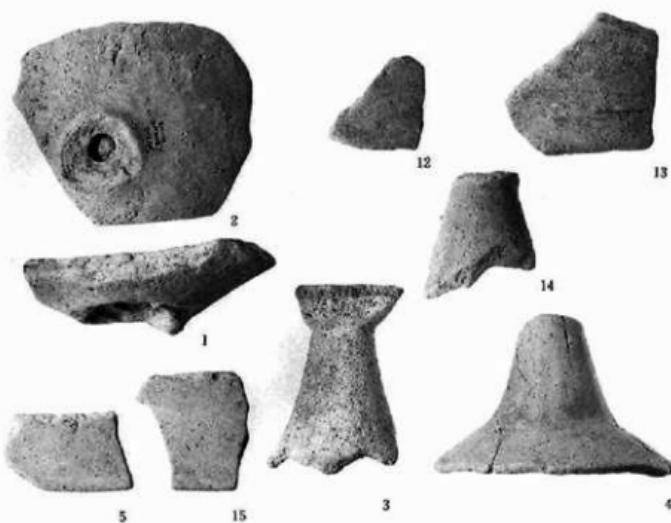
2. Pit立ち割り状況



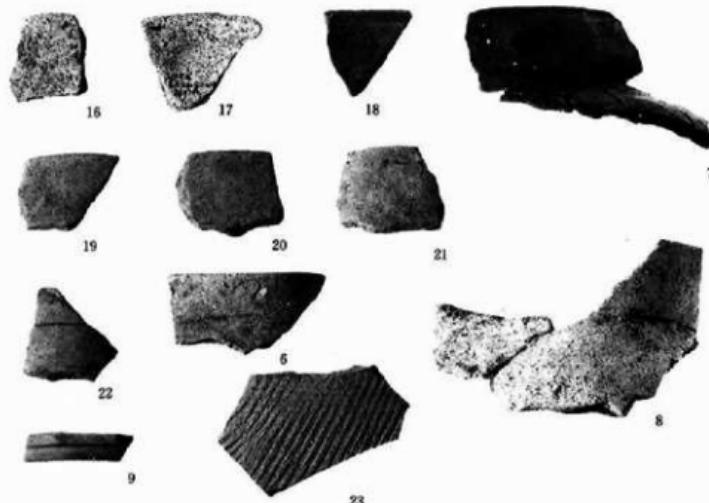
1. 池検出状況（西より）



2. 池堆積状況（北より）



1. 第6層出土土器

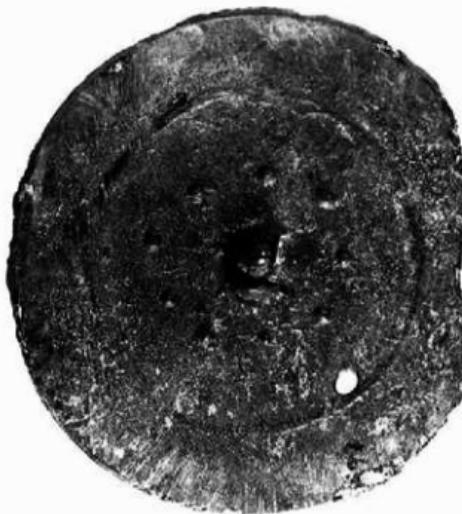


2. 第6層出土土器



10

1. 珠文鏡



11

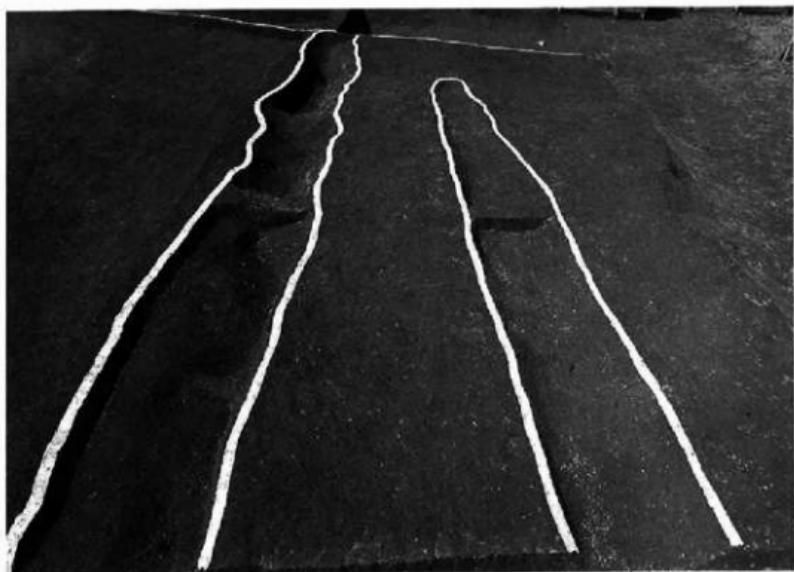
2. 珠文鏡



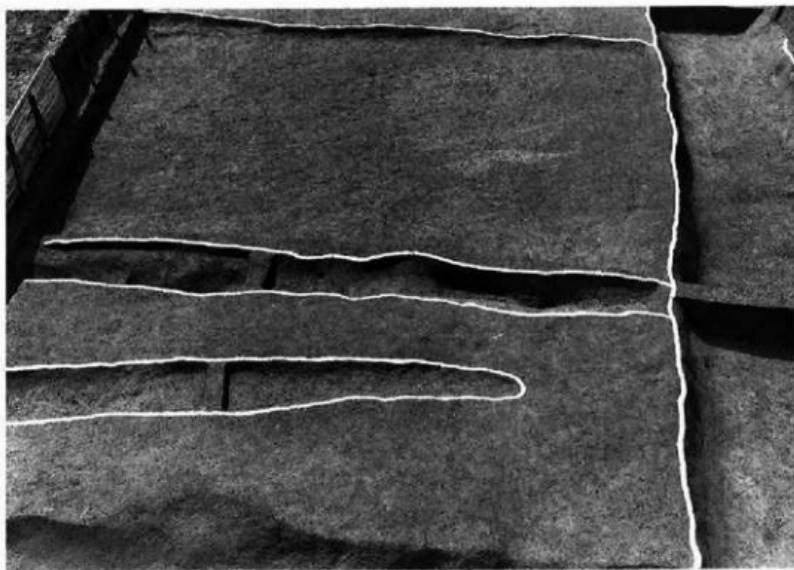
1. 溝 1~4



2. 溝 1



1. 溝 2・3



2. 溝 2・3



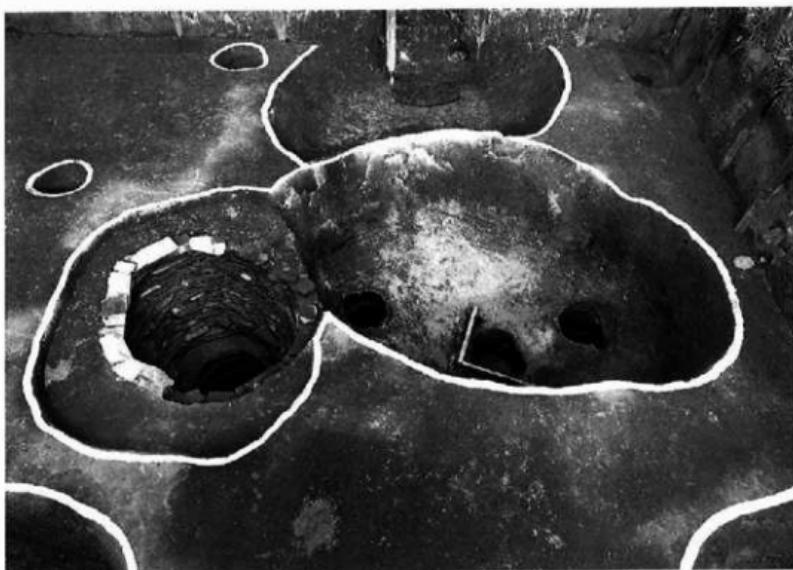
1. 遺構全景



2. 遺構全景



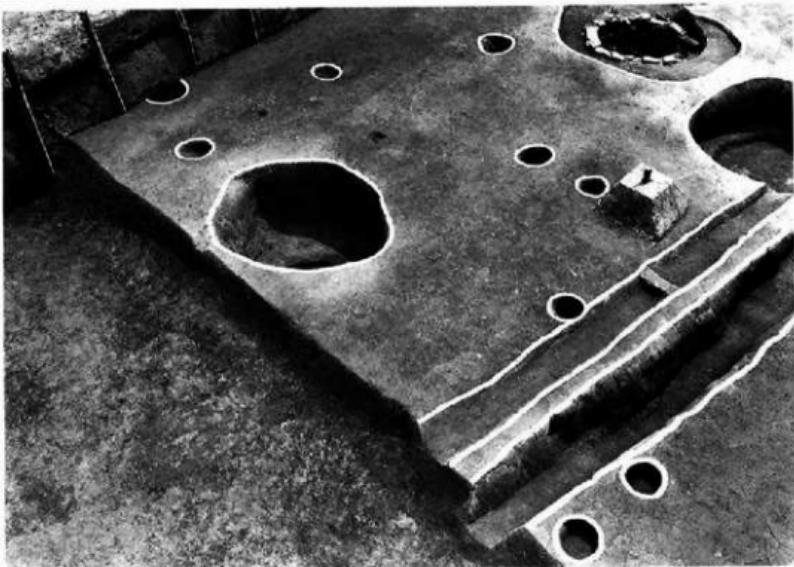
1. 井戸 1・2、土塁 1～3



2. 井戸 1・2、土塁 3



1. 井戸1・2、土塚3



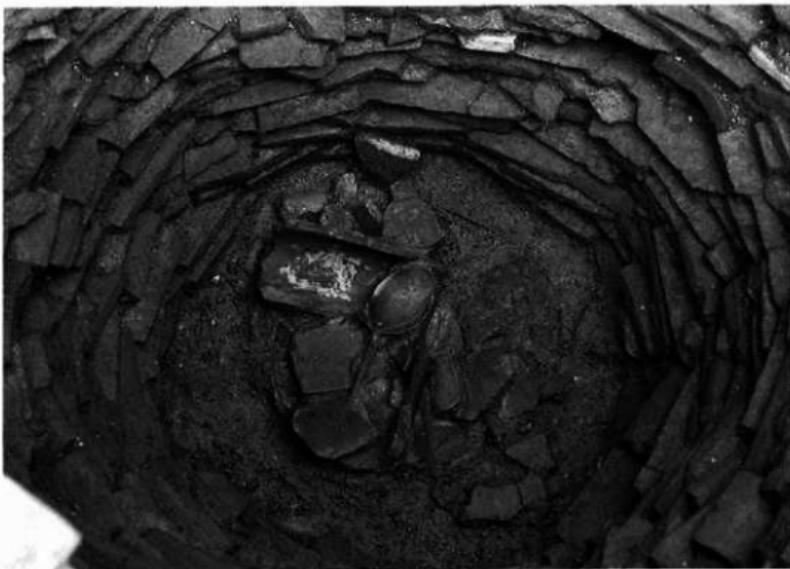
2. 井戸3、ピット群



1. 井戸2



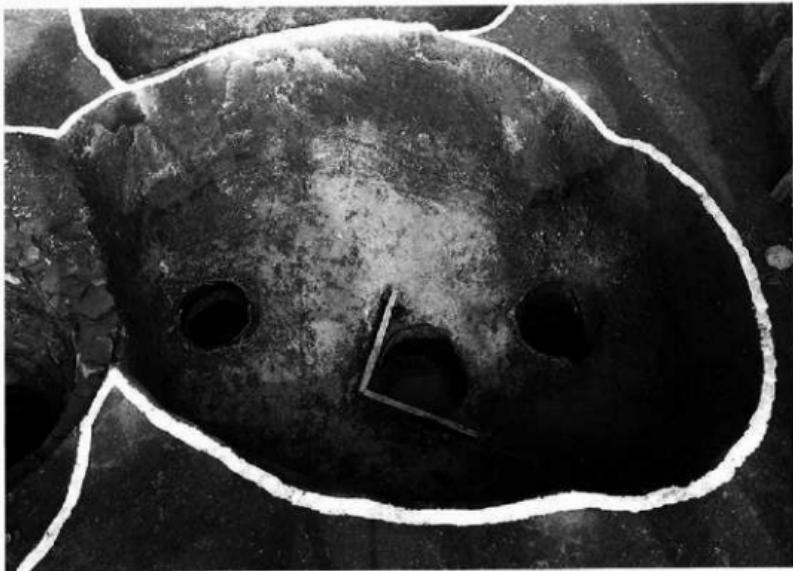
2. 井戸2瓦積み状況



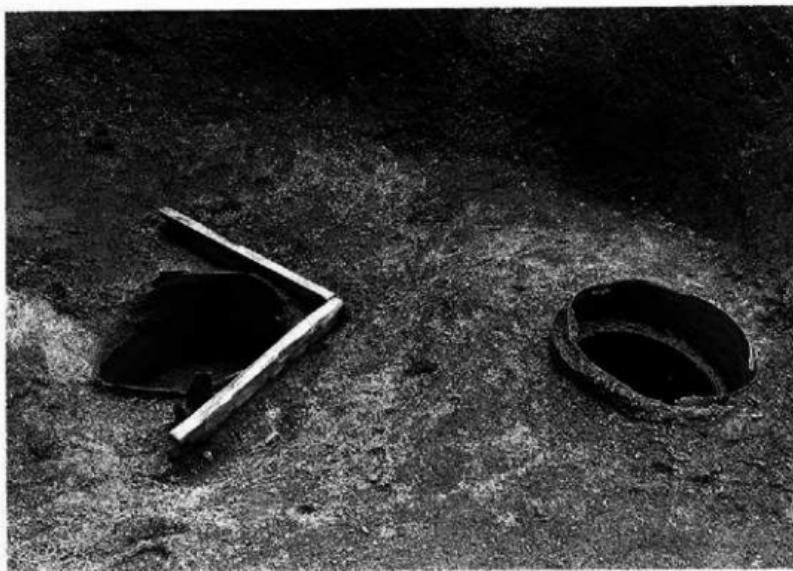
1. 井戸2内遺物出土状況



2. 井戸2内曲物



1. 井戸 1 内曲物 1~3



2. 井戸 1 内曲物 1~3



1. 井戸 1 内曲物 2



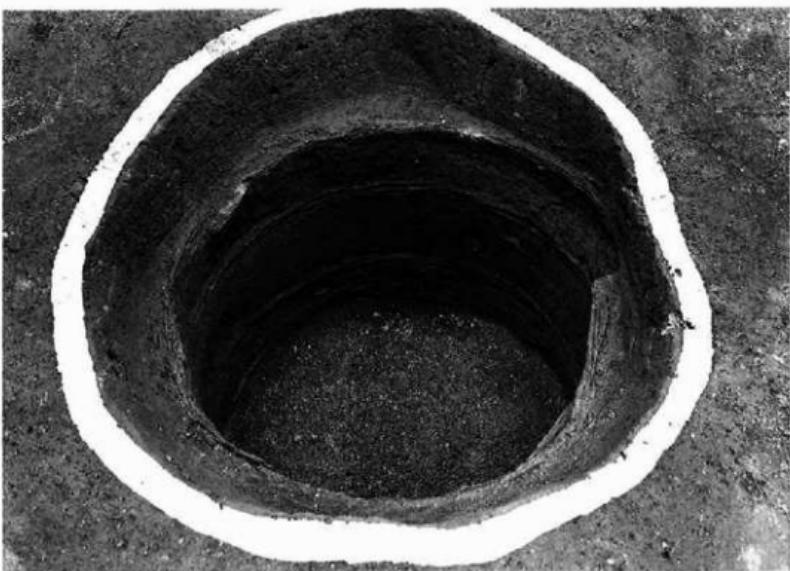
2. 井戸 1 内曲物 3



1. 井戸 1 内曲物 1



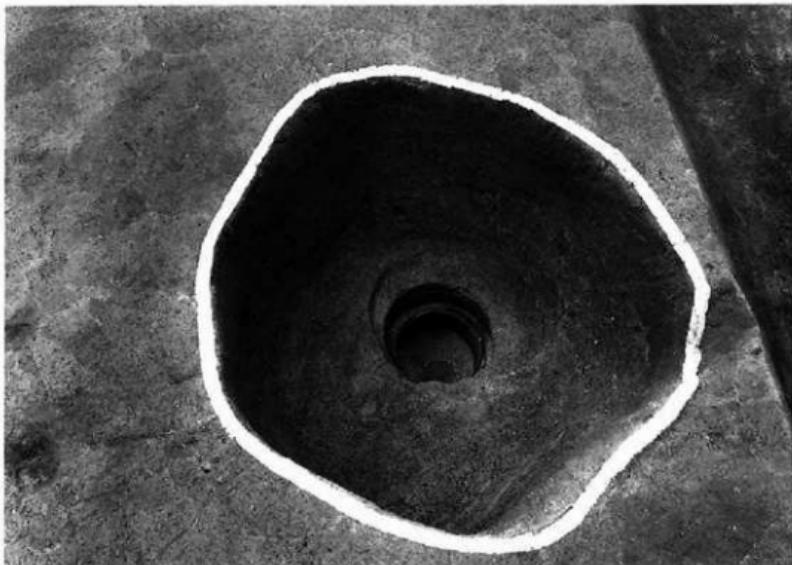
2. 井戸 1 曲物 1 内遺物出土状況



1. 井戸4



2. 井戸4 タガ検出状況



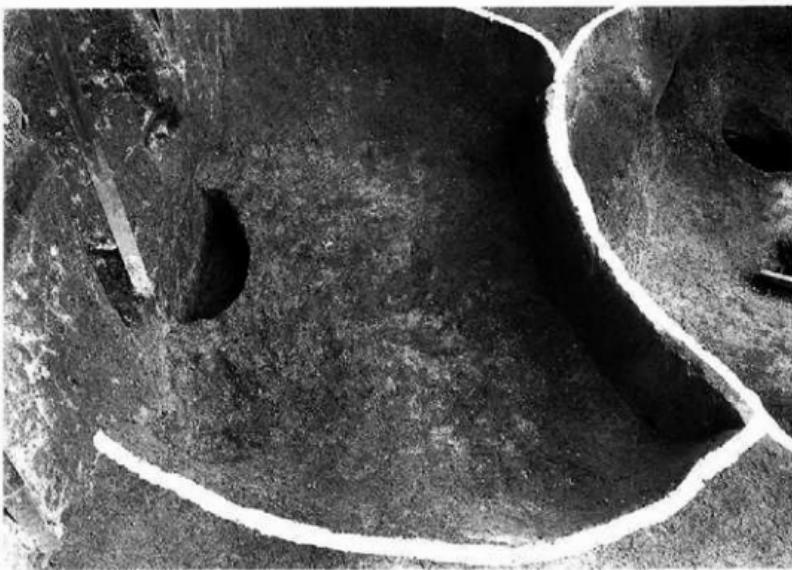
1. 井戸 3



2. 井戸 3 内曲物



1. 土塁 2



2. 土塁 3



1. 土塚 4



2. 溝 5・6



17



88



18



89



25



51'



28



51



54

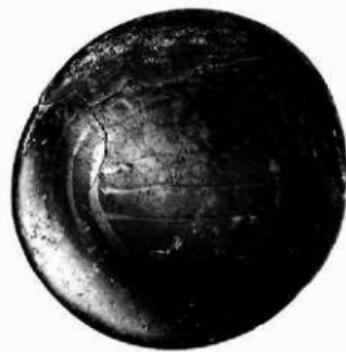


51"



58

井戸1出土土器 瓦器Ⅲ、土師器Ⅲ・ミニチュア羽釜・箸置き



70'



73



70



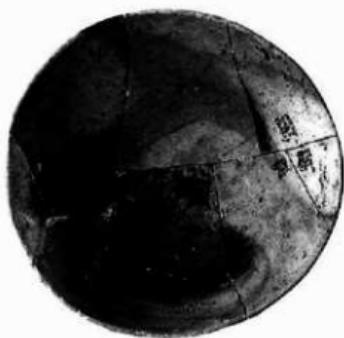
73'



70"



73"



76'

77'



76

77



76"

77"



78



97



99



78



101



71



103



74



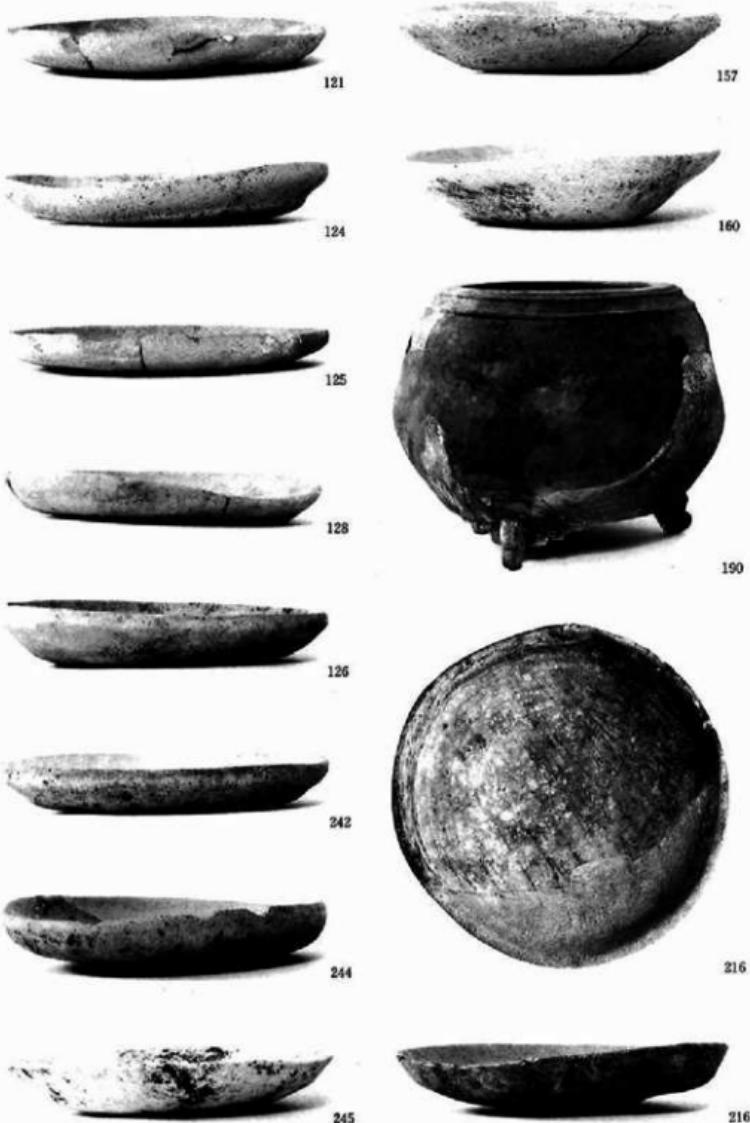
150



90



151



土坡 2、溝 4、包含層出土土器 土師器皿、瓦器皿・火舍



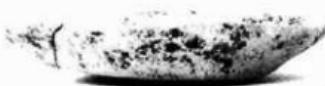
215



212



248



260



250



263



251



265



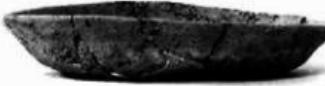
257



266

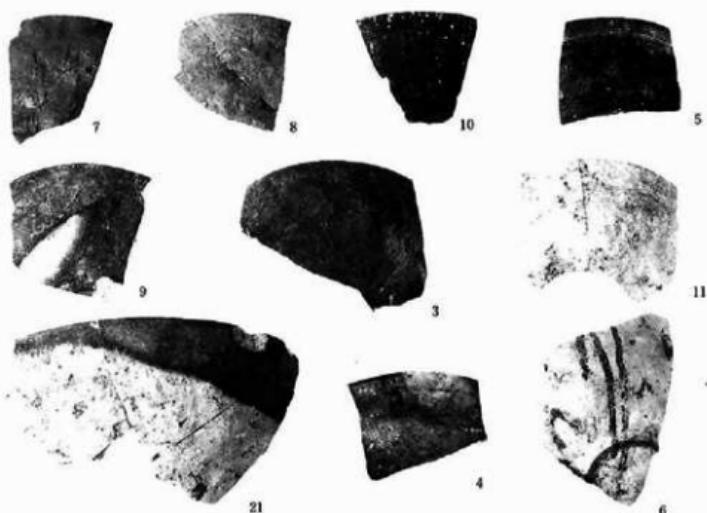


259

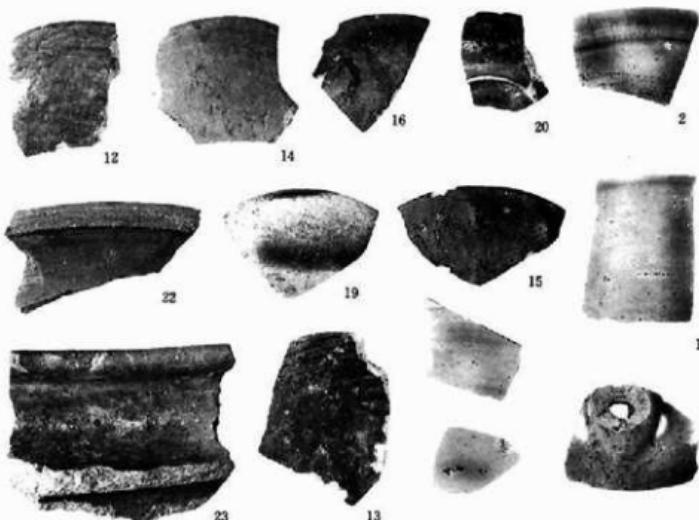


283

包含層出土土器 土師器小皿、瓦器椀・台付皿



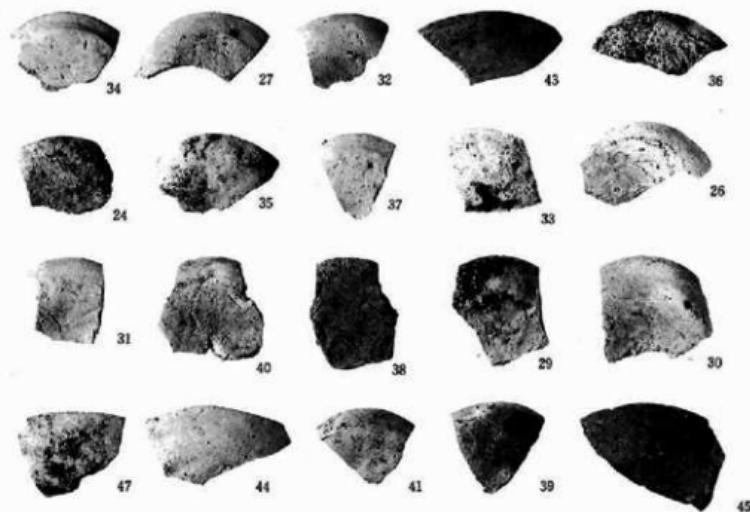
1. 井戸 1 出土土器 瓦器碗・鉢



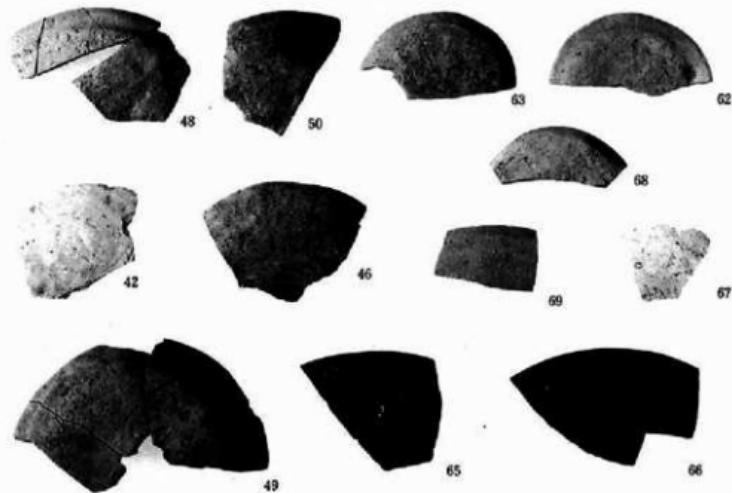
2. 井戸 1 出土土器 瓦器碗・小型碗、須恵器捏鉢、土師器羽釜、白磁碗

図版40

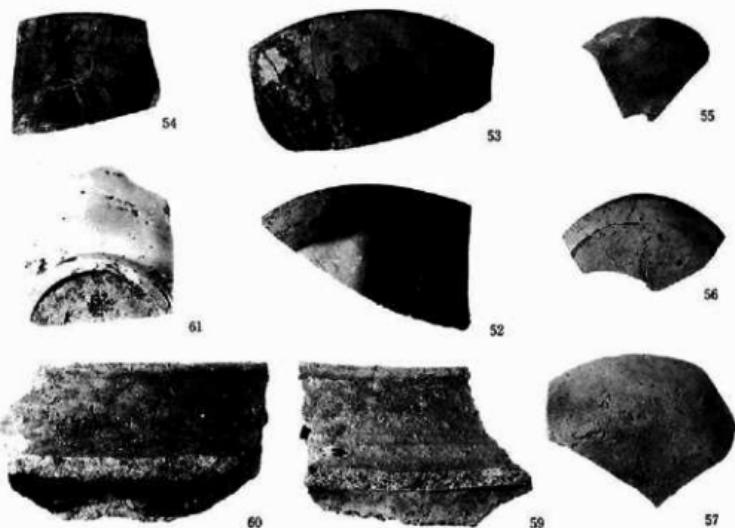
若江遺跡
遺物



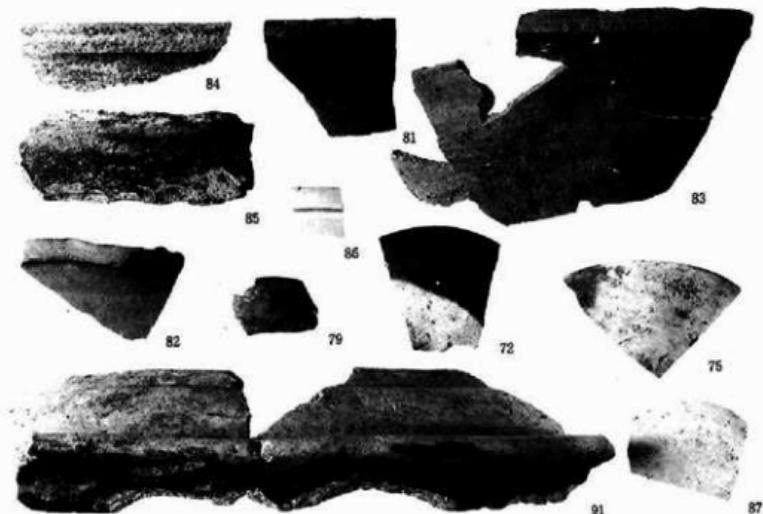
1. 井戸1出土土器 土師器皿



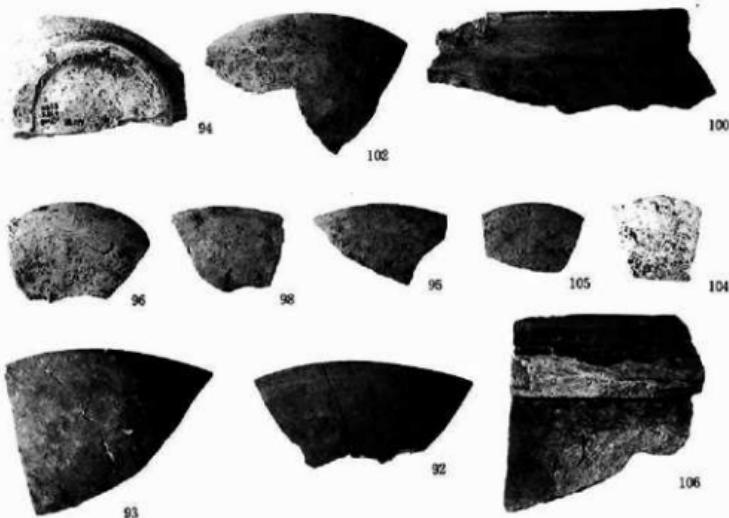
2. 井戸1出土土器 土師器皿、瓦器類



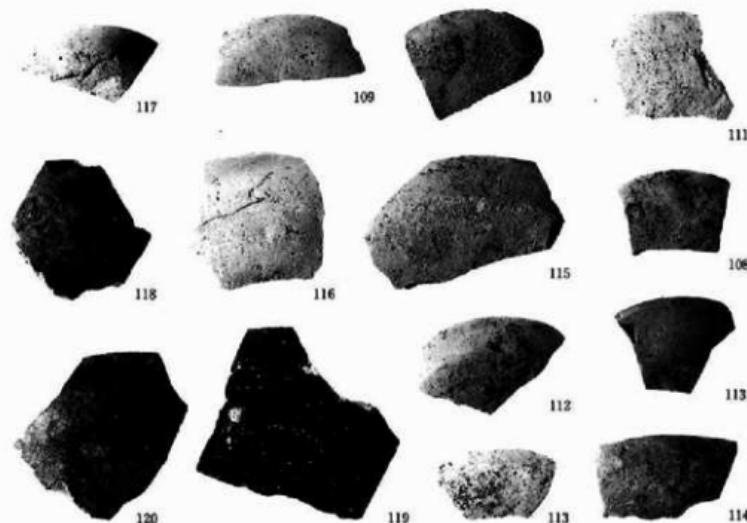
1. 井戸 1 出土土器 土師器皿・羽釜、瓦器碗、白磁碗



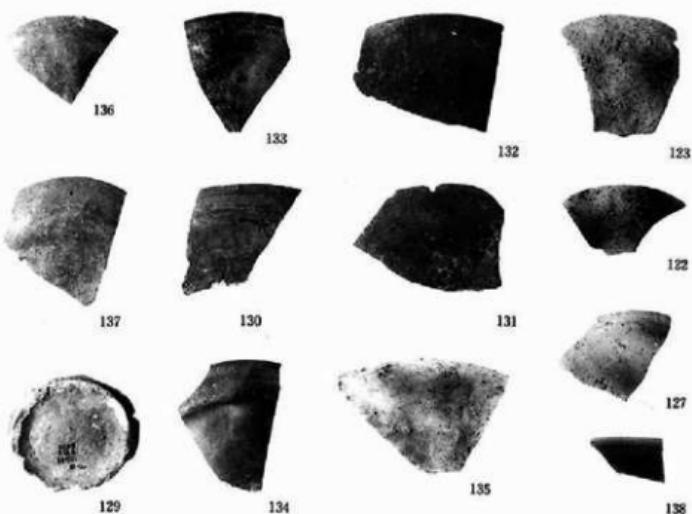
2. 井戸 2 出土土器 瓦器碗・皿・羽釜、須恵器捏鉢、土師器皿・羽釜、白磁碗



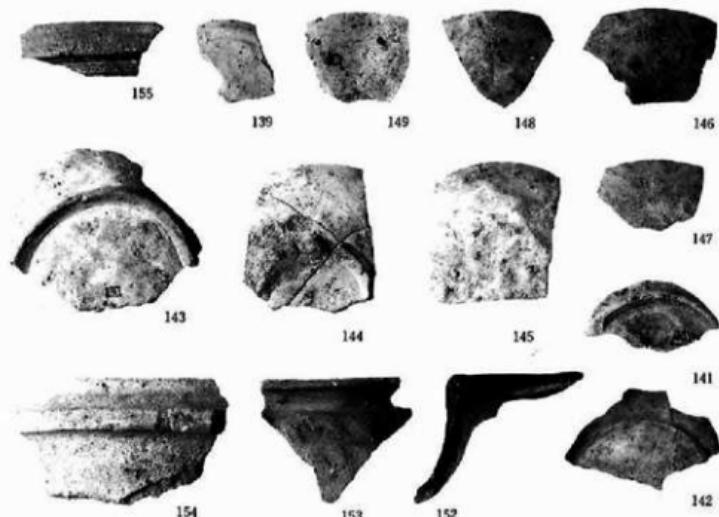
1. 井戸3・4出土土器 土師器皿・甕、瓦器碗・羽釜、白磁碗



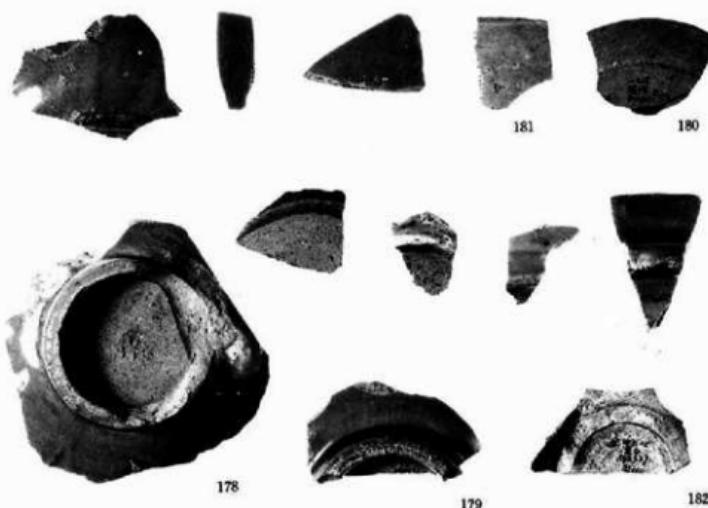
2. 土塚1出土土器 土師器皿・瓦器碗・皿



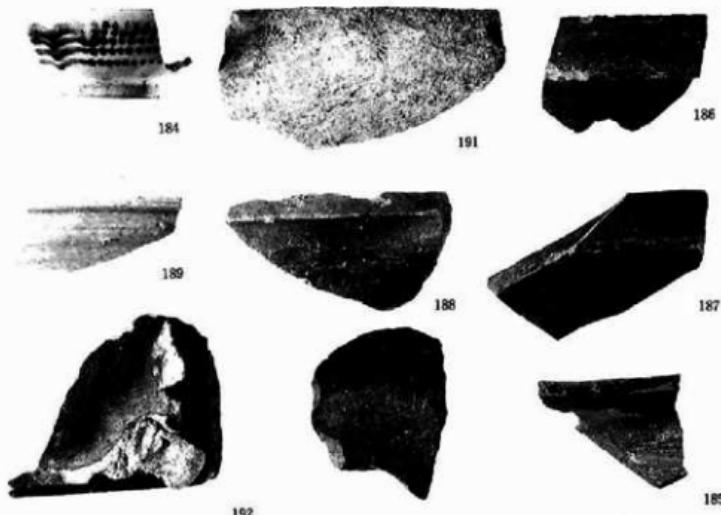
1. 土塚 2 出土土器 土師器皿・瓦器椀・皿、青磁椀



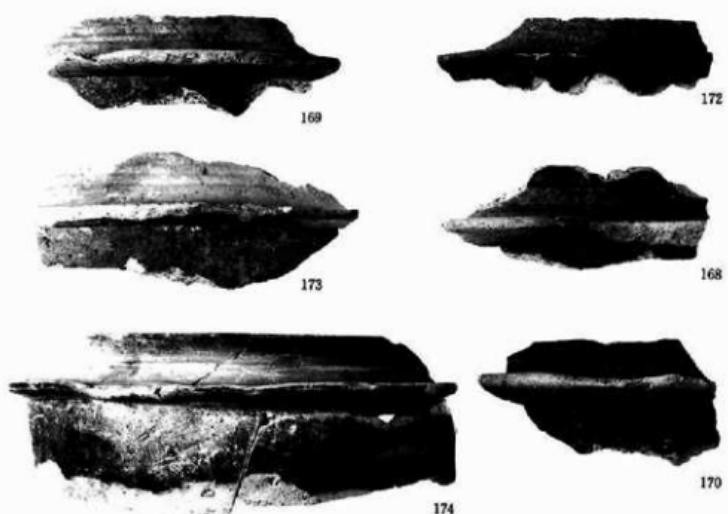
2. 土塚 3 出土土器 土師器皿・杯・羽釜・甌、黑色土器椀・把手付鉢、須恵器捏鉢



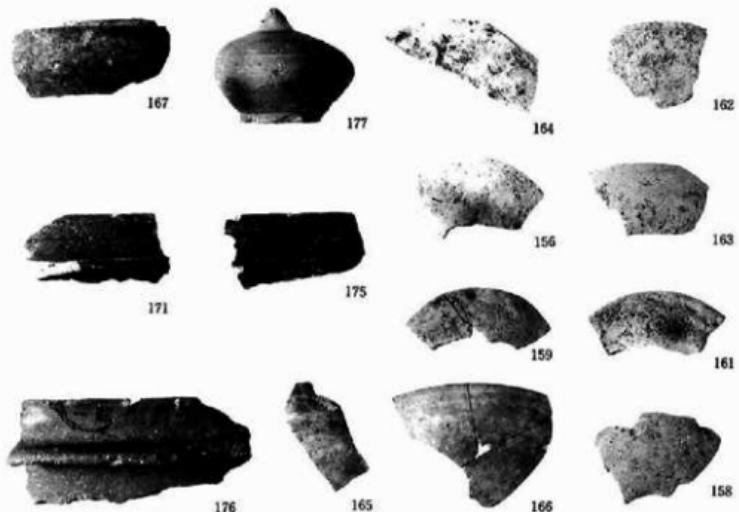
1. 溝4出土土器 青磁碗・皿、白磁碗



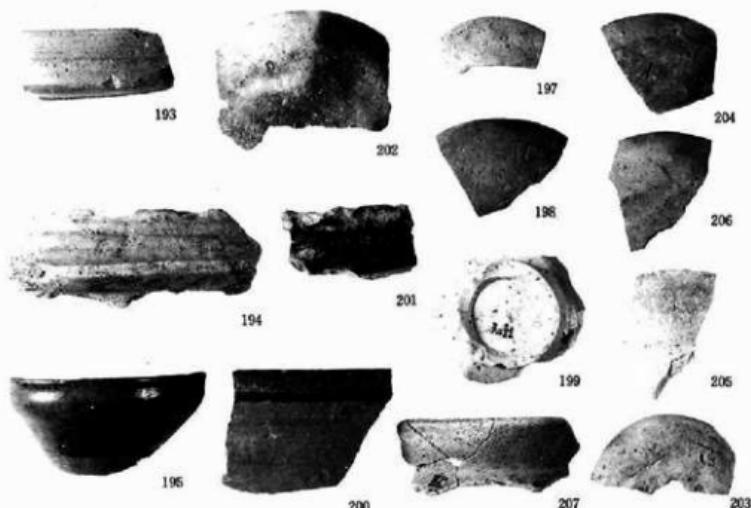
2. 溝4出土土器 瓦器火舍・搗鉢、備前燒搗鉢、陶器碗・鉢、須恵器甕



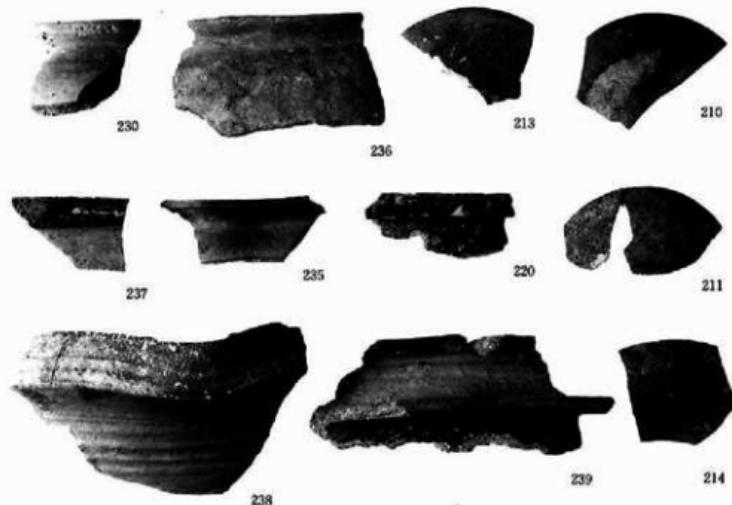
1. 满4出土土器 瓦器羽釜



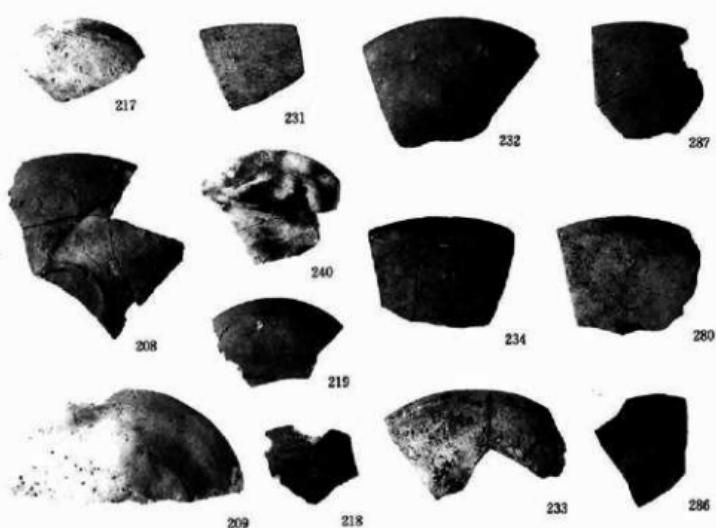
2. 满4出土土器 瓦器椀、羽釜、香炉、須恵器壺、土師器皿、羽釜



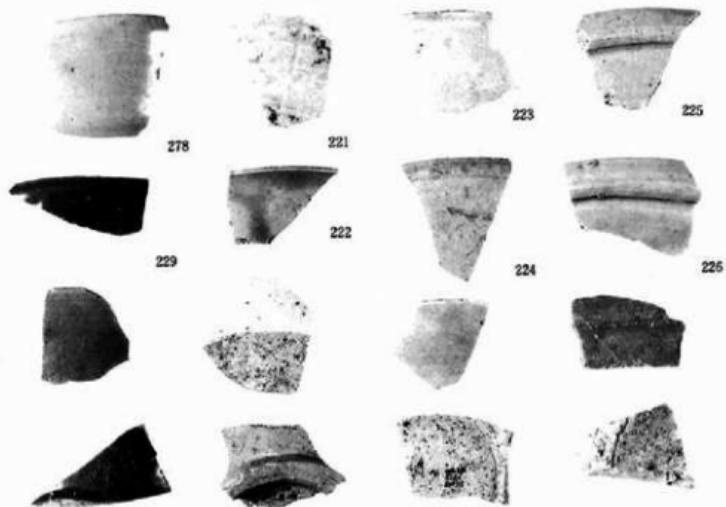
1. 溝 1・2・5・6 出土土器 瓦器碗・羽釜・甕、土師器皿、陶器天目碗、備前燒捲鉢、須恵器捏鉢、布留式甕



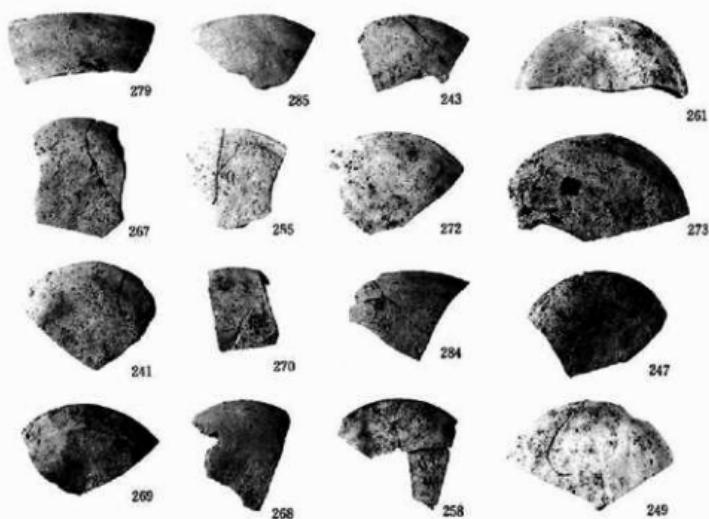
2. 包含層出土土器 瓦器碗・甕、土師器羽釜・甕、須恵器捏鉢、備前燒捲鉢・甕



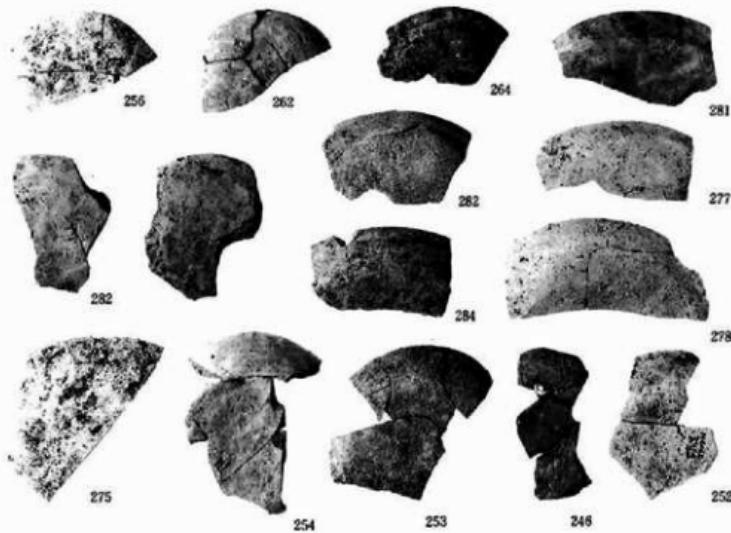
1. 包含層出土土器 土師器杯・皿、瓦器碗・皿



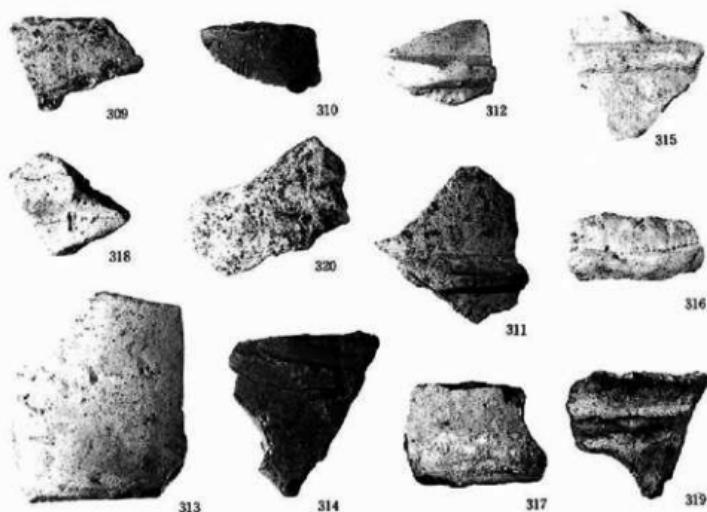
2. 包含層出土土器 白磁碗・皿、青磁碗



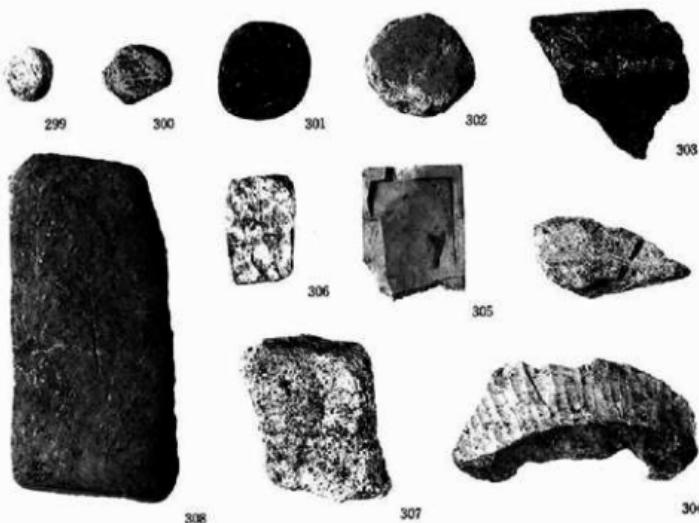
1. 包含層出土土器 土師器皿



2. 包含層出土土器 土師器皿



1. 円筒埴輪



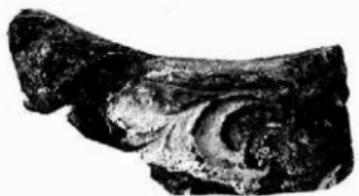
2. 土製品、石製品



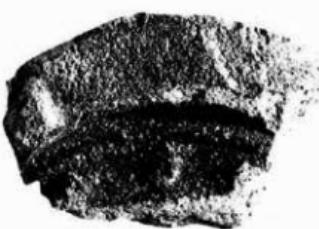
288



289



290



291



292



293



294



1. 弥刀遺跡第5次調査地全景（北東より）



2. 調査風景（南より）



1. A地区全景（南より）



2. B地区全景（南より）



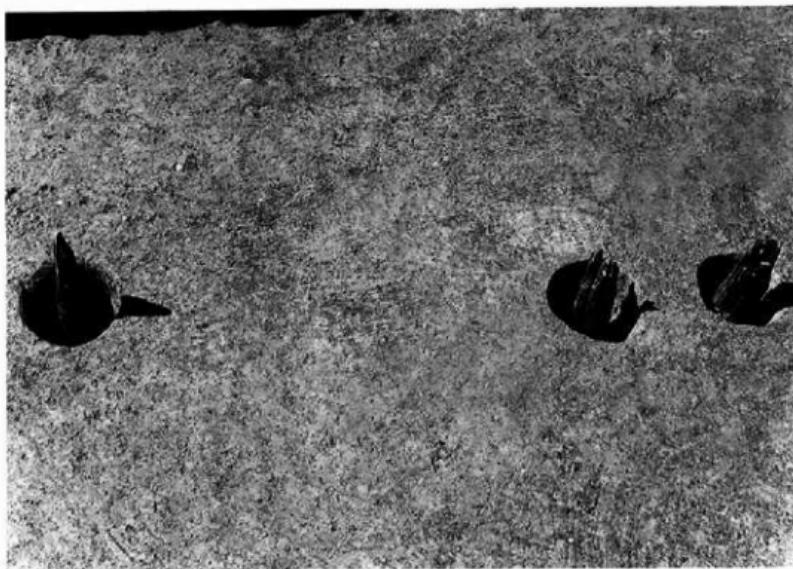
1. E地区全景（東より）



2. C地区全景（南より）



1. D地区全景(南より)



2. D地区柱根出土状況



1. D地区井戸



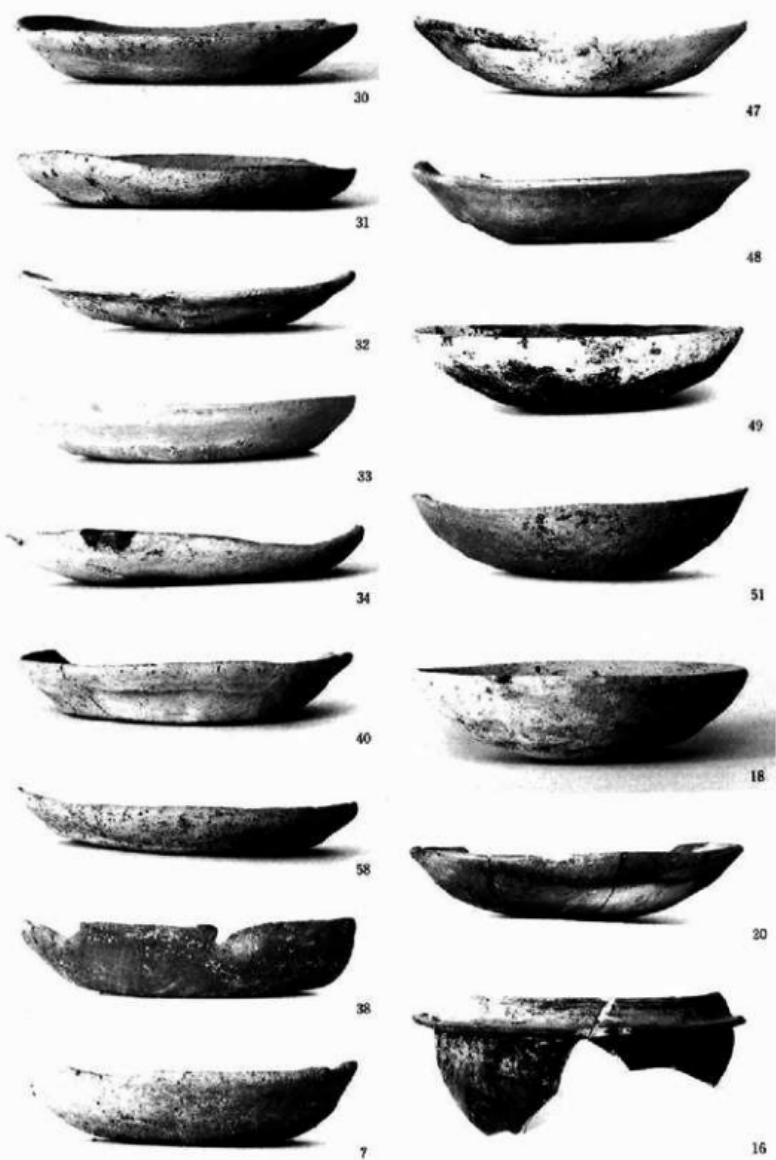
2. D地区井戸（井戸枠検出状況）



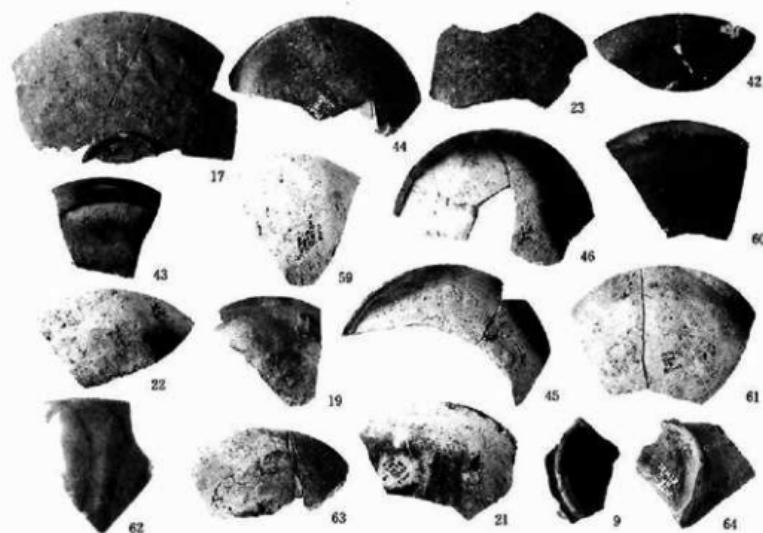
1. D地区井戸（桶側の井戸枠検出状況）



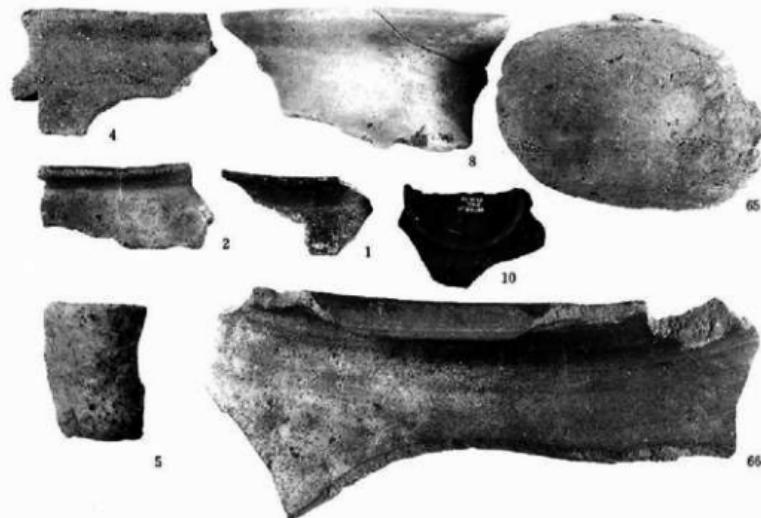
2. C地区 瓦器椀・土師器皿出土状況



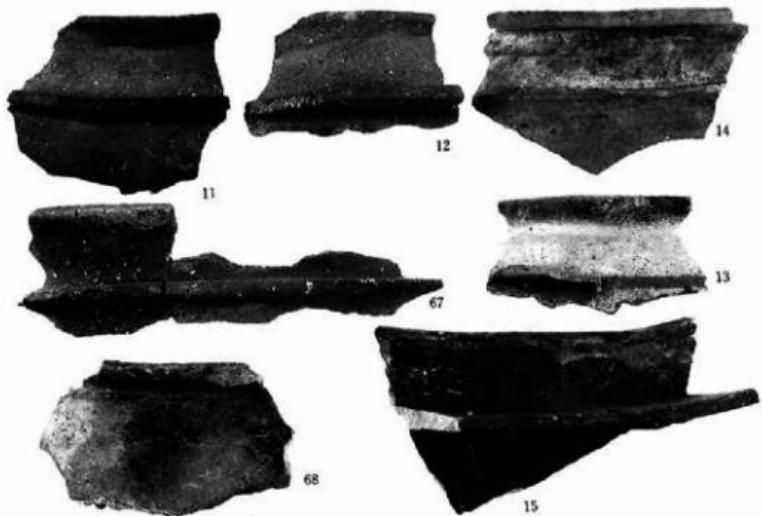
圖版 58
弦刀遺跡
遺物



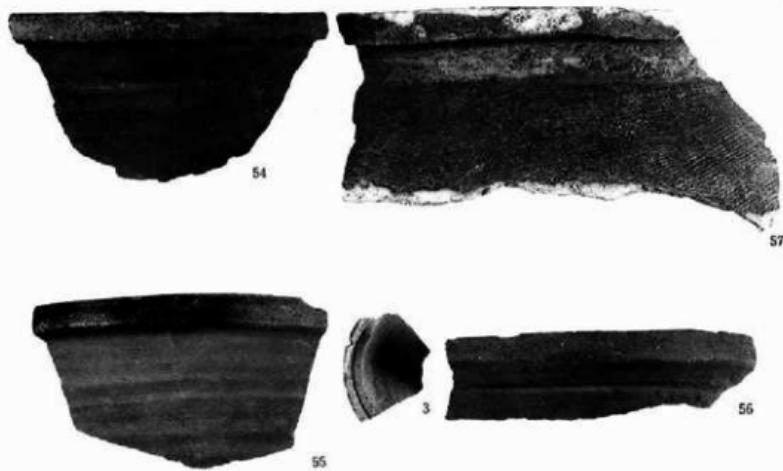
1. 瓦器・青磁



2. 須惠器・土師器・黑色土器・製塙土器



1. 土師器・瓦器



2. 須恵器・瓦器・陶器



1. 西岩田遺跡第11次調査地（北より）



2. 第3層下室におけるピット検出状態



1. 人孔部分全景（北より）



2. 人孔部分第4層内の広口壺・甕出土状況



1. 捜立柱建物の柱穴検出状況



2. 溝検出状態（南より）



1. 近世の畠地路



2. 道路下の調査風景



2



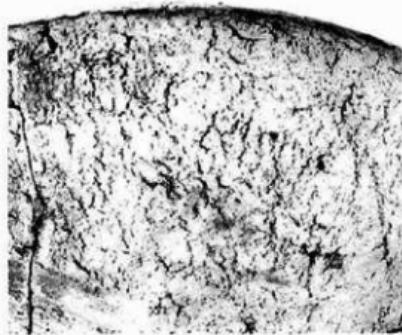
1



5



3



第4層出土土器 1・2広口壺 3壺 5鉢 5'鉢外面



第4層出土土器 4・11・25・26號

第3層出土土器 9・10小型壺



28



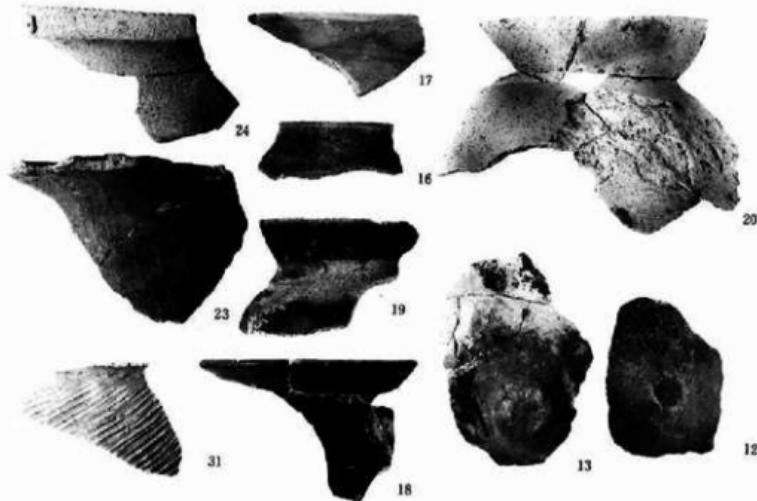
14



21

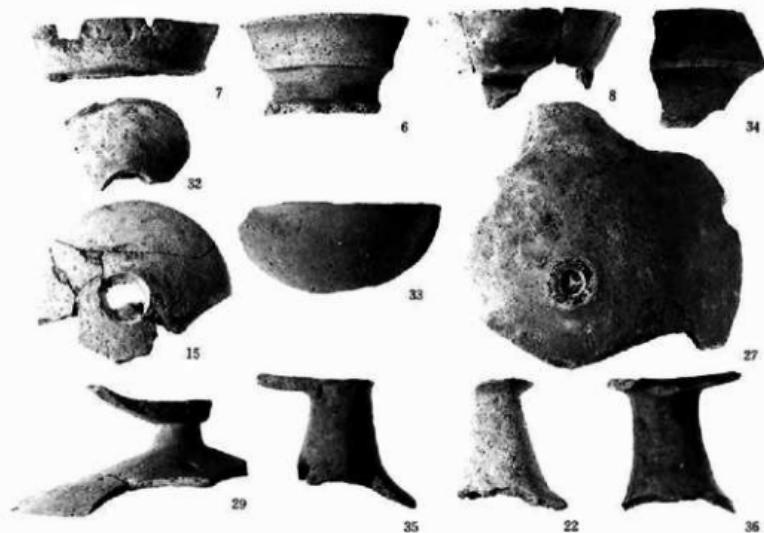


30

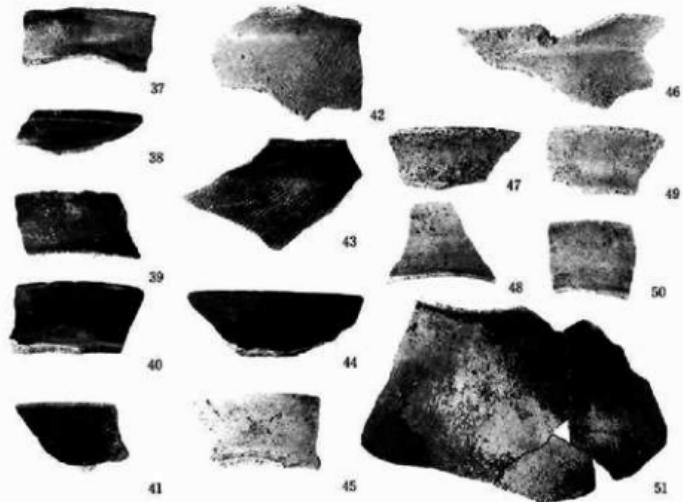


第4層出土土器 16~19・31壺 23・24広口壺 14台付鉢 28高杯 30台付壺 12・13 底部 21土鍤
第3層出土土器 20壺

圖版 67 西岩田遺跡 遺物



1. 第4層出土土器 6～8小型壺 34二重口綠壺 15・32小型器台 29・33・35・36
第3層出土土器 22・27高杯



2. 第4層出土土器 37～51



1. 瓜生堂遺跡調査地全景（西より）



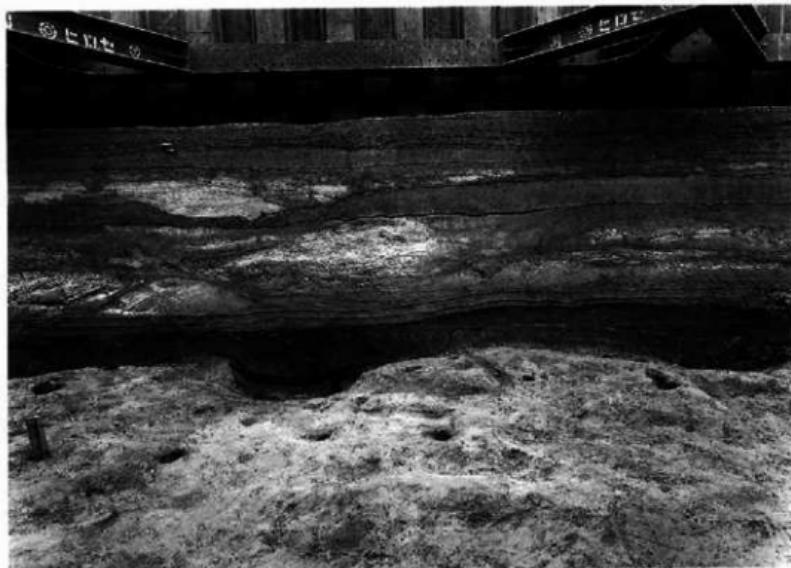
2. 調査地の土層全景（東より）



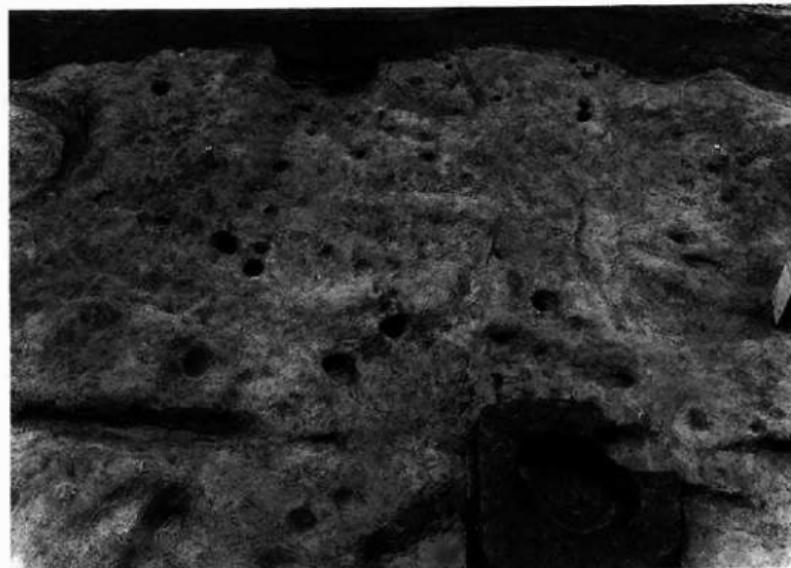
1. 西壁断面と弥生時代中期の遺構（東より）



2. 弥生時代中期の遺構（調査地西部）



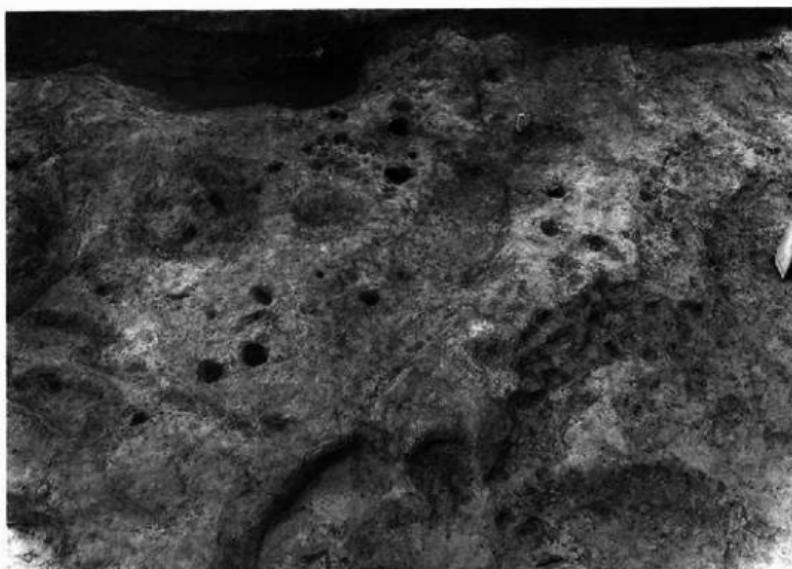
1. 北壁断面（調査地中央西半部）



2. 孵生時代中期の遺構（調査地中央西半部）



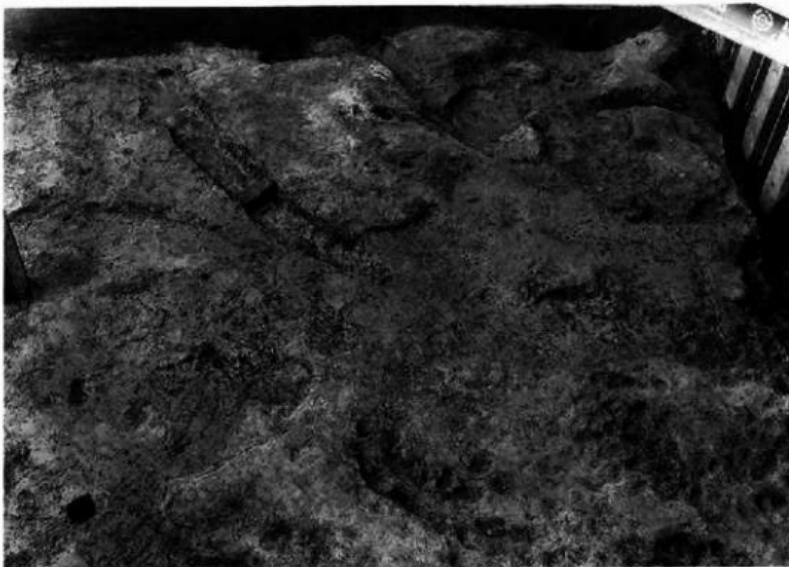
1. 北壁断面（調査地中央東半部）



2. 弥生時代中期の遺構（調査地中央東半部）



1. 北壁断面（調査地東部）



2. 先生時代中期の遺構（調査地東部）



1. 土塁 1 上部及び南肩部出土の弥生土器（南より）



2. 土塁 1 下部出土の手耕棒（東より）



1. 井戸1と底部より出土した水差形土器



2. 北壁内で検出された据立柱の柱底



1. 土塹2内出土の弥生土器（南より）



2. 土塹2（遺物取上げ後）



8



5



4



5



13



14



瓜生土器 台村鉢・水差・高杯・無頸壺



17



79



87



51



52



32



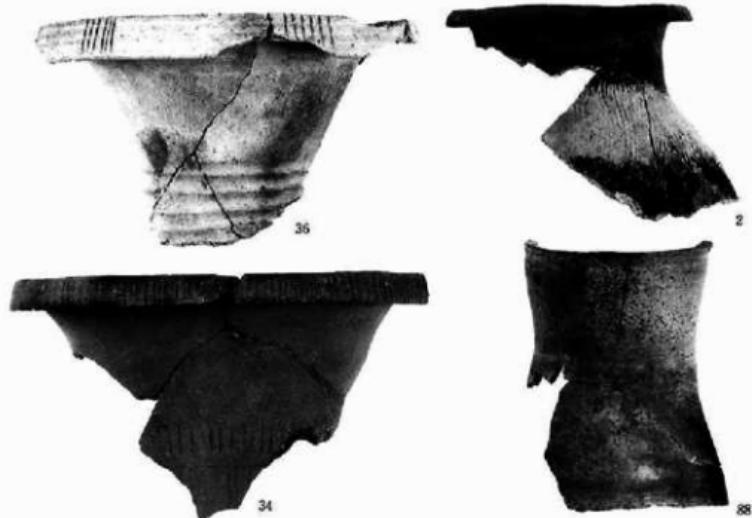
33



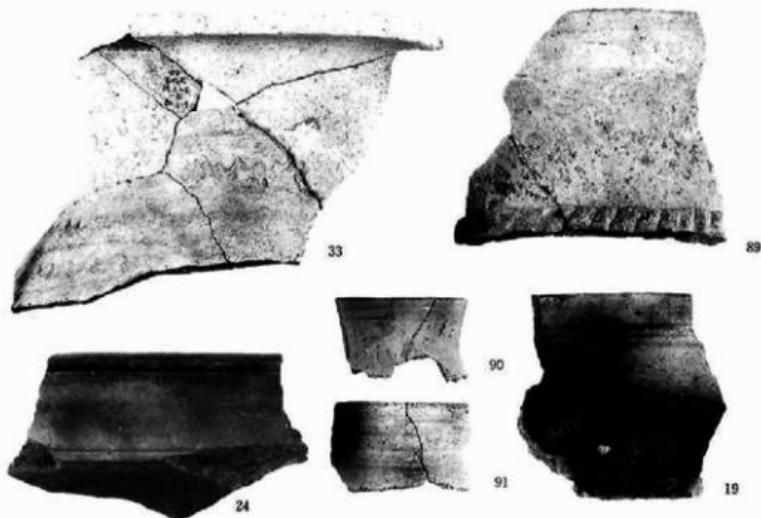
31



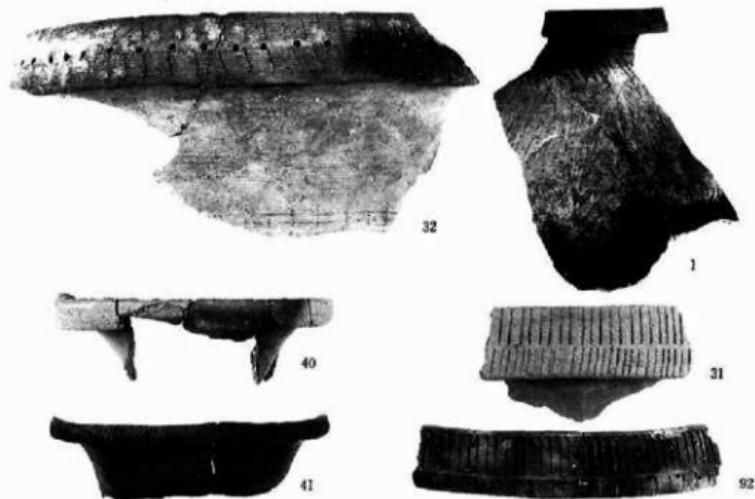
34



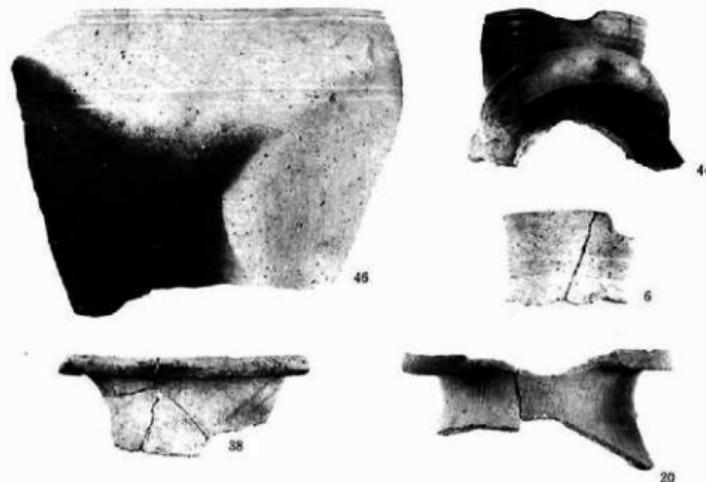
1. 弥生土器 壺



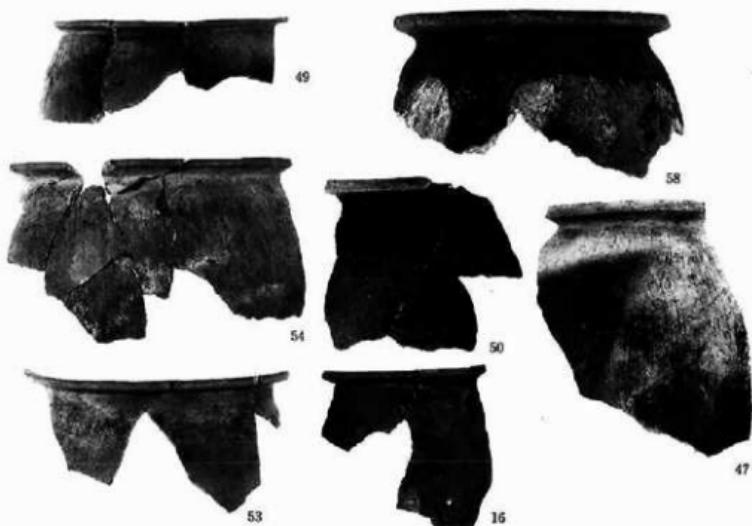
2. 弥生土器 壺



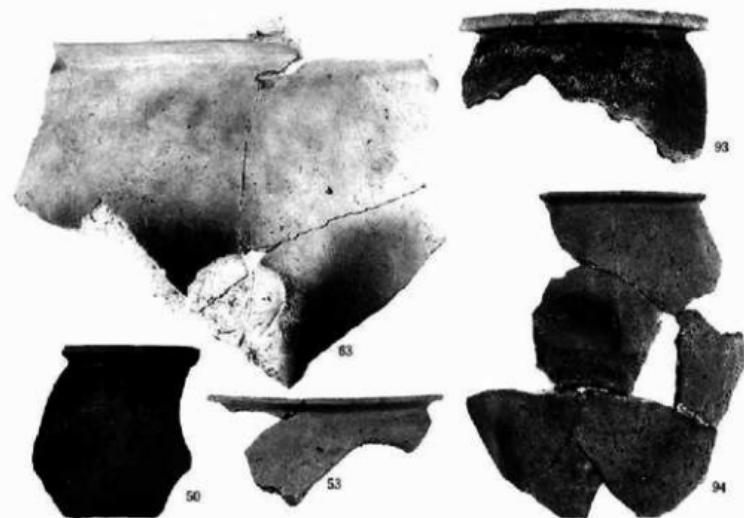
1. 耒生土器 壺



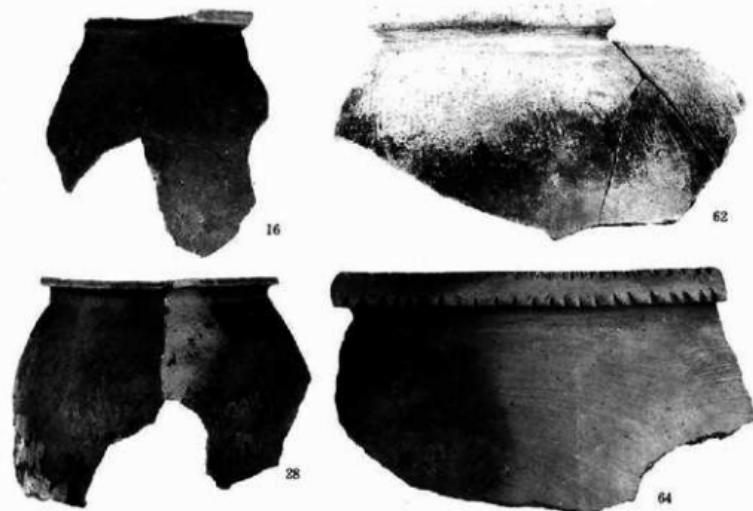
2. 耒生土器 壺・水差・台付無頸壺



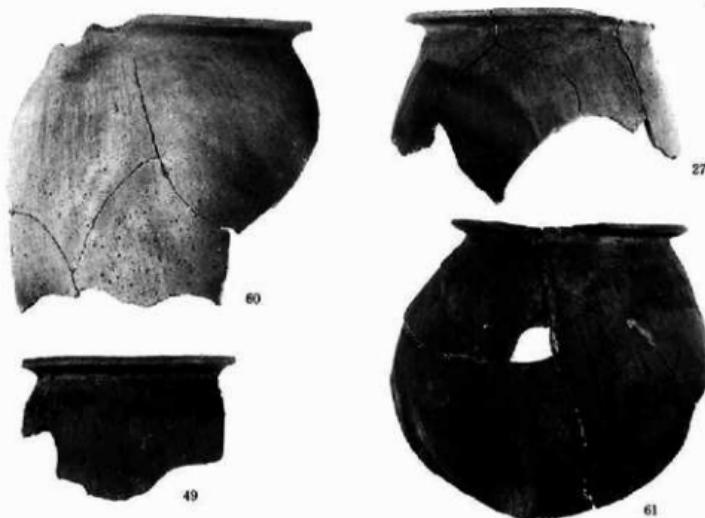
1. 瓜生土器 壺



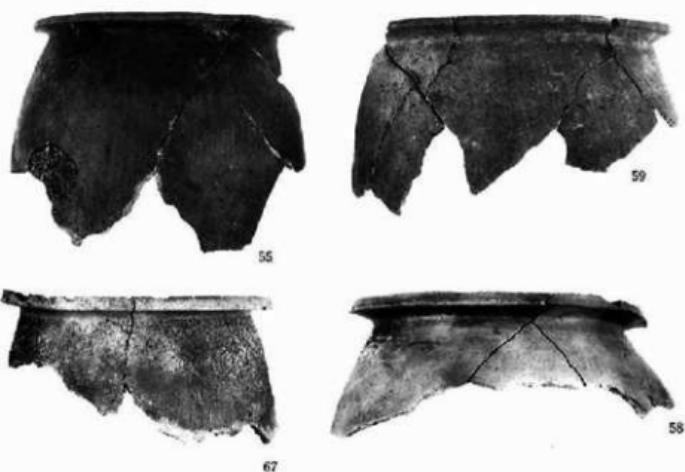
2. 瓜生土器 壺



1. 弥生土器 壺



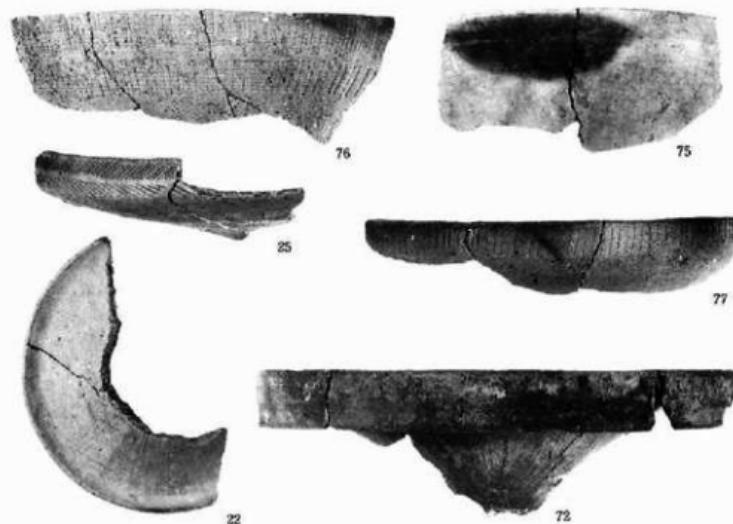
2. 弥生土器 壺



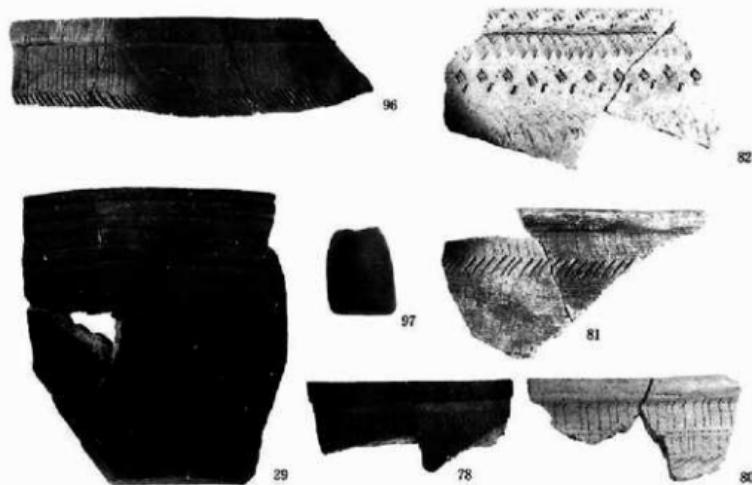
1. 瓜生土器 壽



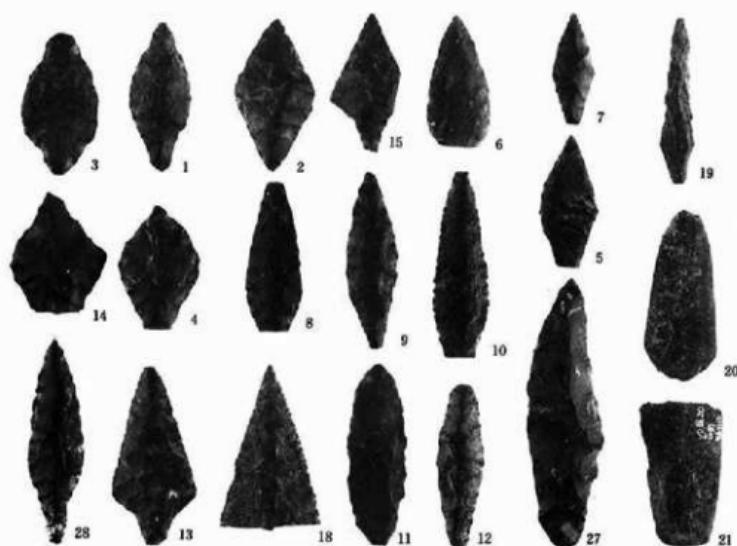
2. 瓜生土器 壽



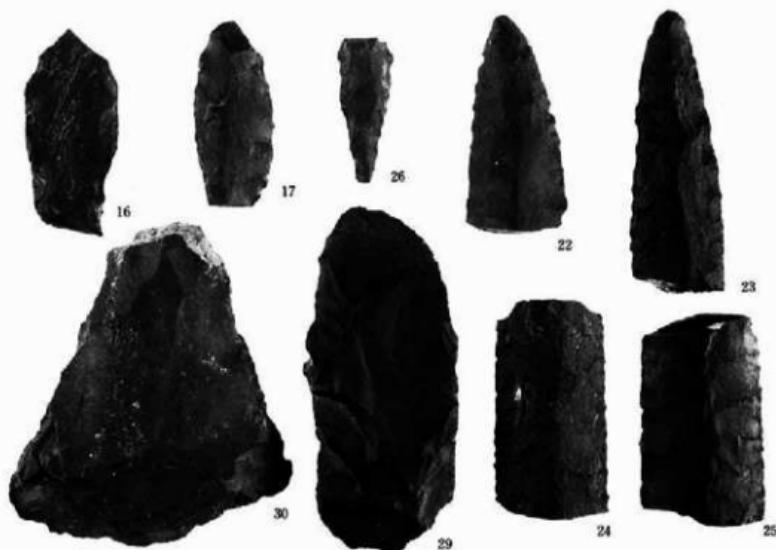
1. 弐生土器 台付鉢・高杯



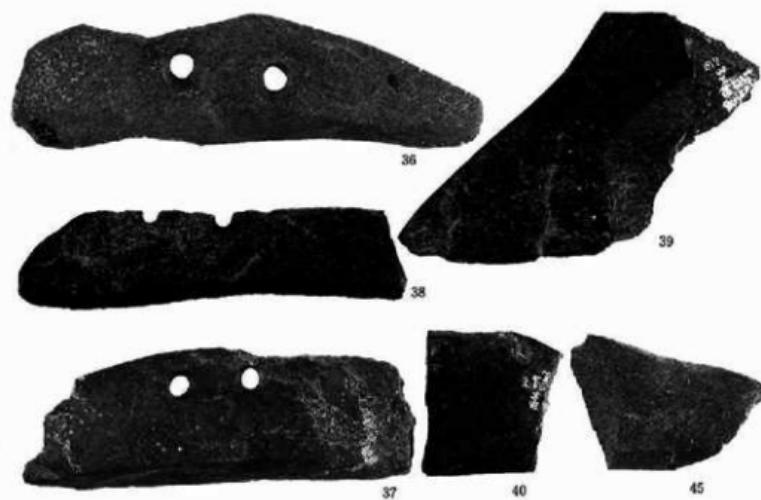
2. 弐生土器 鉢・高杯・ミニチュア土器 |



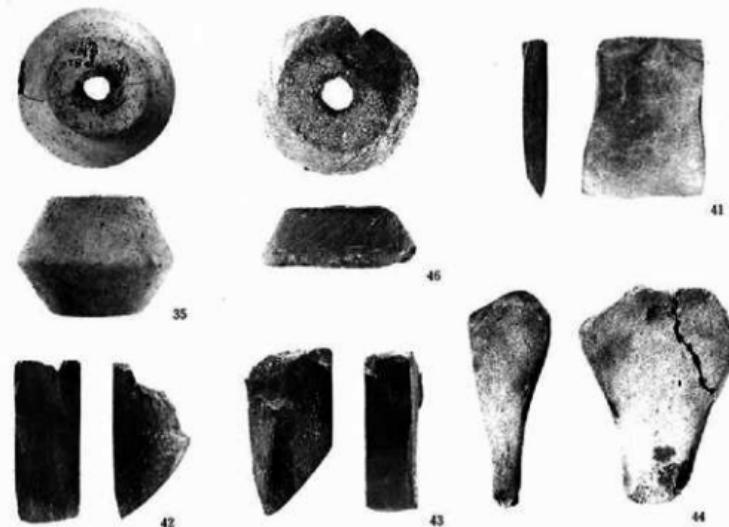
1. 打製石鏟・磨製石鏟・磨製石劍・石錐未成品



2. 石槍・石錐・石器未成品



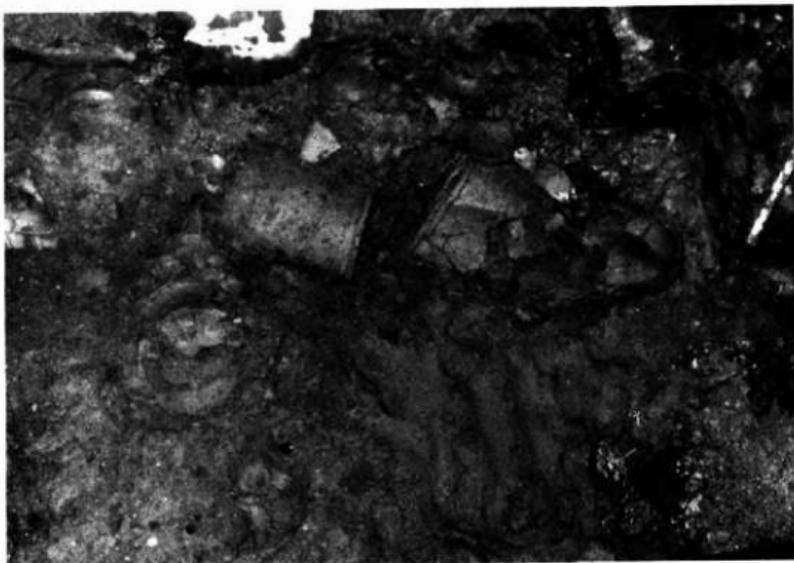
1. 石庖丁・大型三角形石庖丁



2. 紡錘車・石斧・砥石



1. 調査地遠景



2. 弥生土器（中期）出土状況



3



4



7

圖版 89 段上遺跡 遺物



6



5



1



2

弥生土器



2



4



3



6

子持勾玉・須惠器・土師器・縄釉陶器片



1. 調査地風景



2. 調査風景



1. 第1トレンチ北側断面



2. 第2トレンチ北側断面



1. 第3トレンチ北側断面



2. 第4トレンチ北側断面



1. 第5トレンチ北側断面



2. 第6トレンチ北側断面



1. 第7トレンチ北側断面



2. 第8トレンチ南側断面



1. 第9トレンチ北側断面



2. 第10トレンチ北側断面

(財) 東大阪市文化財協会概報集

1989年3月31日

発行 財團法人 東大阪市文化財協会

印刷 株式会社 中島弘文堂印刷所

